

春夏 spring-summer  
2022

vol.  
29

# 春風新聞

shumpu shimbun



春風社

Shumpusha Publishing Co., Ltd.

〒220-0044

横浜市西区紅葉ヶ丘 53

横浜市教育会館 3F

TEL (045)261-3168

FAX (045)261-3169

www.shumpu.com

✉ info@shumpu.com

【図書目録】 哲学・思想・宗教 4 / シリーズ 幻想と怪奇の英文学 4 / 文芸評論 5 / 文学・エッセイ 6 / 芸術・音楽・写真 7 / 総記・辞典・事典 7 / 東洋英和女学院大学社会科学研究叢書 7  
教育 8 / 観光・環境・自然 8 / 言語・心理 9 / 社会・歴史・政治 10 / 横浜市立大学新叢書 11 / 立教大学人文叢書 11 / 人類学 12 / シリーズ 来たるべき人類学 12  
【連載】 日々の風 暮らしのなかの哲学 長谷川宏 4 / 翻訳ピンチ! 中条省平 6 / 帰ってきた mini 大河 しりあがり寿 7 / 英文学にデコピン 阿部公彦 8  
コ・プレゼンスの時代へ 吉原直樹 9 / ポストモダンの処方箋 白井聡 10  
【コラム】 自著を語る 11 / 春風接人 12

隠路あり、

照々の天に宏遠こうえんの道より開く。

クライストの微妙の戸なり。

一息開けて

億兆相抱くべし。

一息閉ぢて

衆星いんえつ隕越えつを致さん。

生命の機は一息にあり——意なり。



写真  
ことば

『新井奥達著作集』六卷二九六―二九七頁  
『おうすいポケット 新井奥達語録抄』二二三頁より  
火焰型土器

# 神秘と無限の 氣息にふれる

—後半—

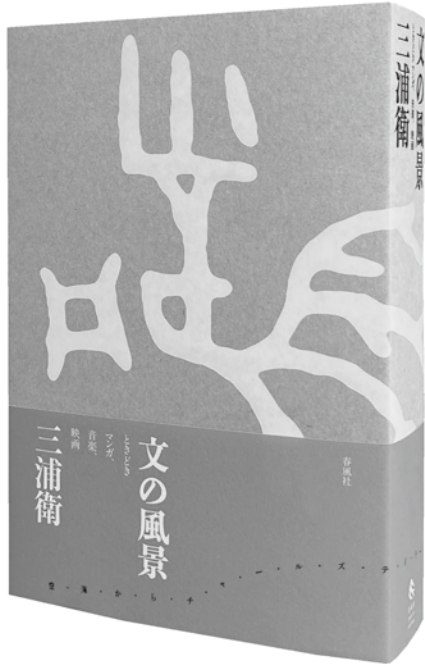
『文の風景』  
刊行によせて

中条省平  
(フランス文学者)

×  
末松裕基  
(教育学者)

×  
三浦衛  
(春風社代表)

書評エッセイ『文の風景 ときどきマンガ、音楽、映画』(三浦衛著、春風社)の刊行によせて、二〇二二年八月二八日、横浜市教育会館にて、フランス文学者の中条省平氏と教育学者の末松裕基氏をお招きし、春風社代表の三浦衛と鼎談を行いました。その模様の後半をお伝えします(前半は前号に掲載)。



情、感覚みたいなものを言う書」と

で、三浦さんが同じ読み方をしているからですね。

です。このごろゲラの校正をしながら感じるのですが、接続詞、形容詞、副詞を排除していくと、詩に少し寄ってくる。逆に詩の言葉があるとしたら、そこに接続詞、形容詞、副詞を加えていくと散文に近づく。読者に対して、読む筋道を提示していくようになる。しかしそれは読者サービスのようであって、実は読者を置いてきぼりにしていると感じます。

詩を読むことは、道筋のないところに読み手が道筋をつけていくから楽しいのだと思います。接続詞、形容詞、副詞が多いと、「こうしてください」と誘導されてしまう。「やめてくれよ、俺のやり方でやらせてくれよ」と思います。

末松 三浦さんが『文の風景』の中で、何かの本についても、「これは詩だ」というつもりで臨んだら、結構読めるようになったと書いていましたね。

三浦 『正法眼蔵』の話かな(詩として読む)三〇四頁。

中条 学術書、哲学書とか、理屈を言う難解な本を詩のように読むことの根源的な体験は、新井奥遼でしょう。私は三浦さんが編んだ本で新井奥遼を読んでいますが、それでもやっぱり難しいですよ。けれど三浦さんが言うには、わからないまま何度も音読したり、文字面だけでいいから読んでみると、だんだん気持ちよくなってきて、わかった気になってくるという。それは「学術書という理屈を言うための書」と、「詩という理屈とは関係ない、何らかの感

中条省平氏



## 世界を変える／ 世界を信頼する

三浦 中条先生はヤスケン(安原顯さんの創作学校で、最初から私の書くものをおもしろがってくれました。私は以前勤めていた大空社の時代にヤスケンさんの本を読み、「おもしろえ人がいるなあ」と思った。そのうち彼が「創作学校をやると知ったので、「この人に会ってみたい」というノリで受講した。ヤスケンさんと中条先生が定期講師、またゲスト講師として毎回いろいろな方が来てくれました。

中条先生からいただく点数は、いつも高かった。一年が終わったとき、「安原顯賞」「中条省平賞」というのがありました。中条先生は読み巧者だし、提出される小説だけでも相当な分量を読んでいるわけでしょう。そんな先生が、「A4判で十枚とか二十枚の短編でも、一枚の半分くらい読むと、『大体こんなふうな話かな』と予測できる。ところが三

浦さんの書くものだけ、全体の半分読んで、さらにもう少し読んでも予測できない。結局予測できなくて、『そうなるの?』というところがおもしろかった」とおっしゃってくださいました。神妙に先生のコメントを伺いましたけれど、「そうだろうな」と自分でも思った。

小説作法としては、プロットを作ってから書き始めるものでしょうけれど、私は何にもなしに「とりあえず一行目を書いてみようかな」とやっていったわけ。「書き手が半分書いてもどうなるのかわからないから、読み手がわかるわけじゃないよな」と、中条先生のコメントは実に腑に落ちた。

小説を書くのなんてはじめてなのに、すごい数の小説を提出させられた。その一年の経験を通じて、「積極的に嘘をつくのって、結構おもしろいぞ」ということを体得しました。ある村が解体していくシーンを書いたときに、当時、柳田國男のものが好きで読んでいた時期でしたから、「柳田國男を参考にしつつ分析するところだ」と小説に書いた。そのときも点数は高かったんだけど、その日の講座が終わってから中条先生に呼ばれて、「三浦さん、あれは柳田國男全集の何巻に出てくる話ですか?」と質問された。「いや、あれ嘘です」と答えたら、中条先生が「えっ?」と絶句したので、「やっ」と思った。実生活で嘘をつくという問題が生じるけれど、小説だと嘘ついていいんだ、それも読み巧者の中条先生をだませたという

## 言葉と俳句

三浦 中条先生がお話の中で、「方言」について触れておられましたが、方言は、身体を伴っているからこそ揺さぶられるのだと思います。それを強烈に再認識させられたのは、二〇一八年三月に『石巻片影』(春風社)のパネル展示に伴い銀座の教文館で、何十人かを前にし「とじえね」の話をしたときです。言葉に関して話をしている途中、「わだすは、こどものときに、とじえねわらしでありました」と語ったとき、バーツと涙が出た。自分でも驚きました。

そのときに、言葉というのは、主体である私が意識的に使っているよ

うだけれど、そうではないのではなにか、ということを強烈に感じた。村松友視さんの『ヤスケンの海』(幻冬舎、二〇〇三年)という本があるけれど、この世に生を享けてから、言葉や葉を覚え、言葉を操ってきたように思っているけれど、それはとんでもない間違いなんだ。言葉のほうに圧倒的に海で、言葉の中で自分は泳がされ生かされているに過ぎない、と気づいた。

中条 三浦さんが今おっしゃったことは、西洋の主流の言語観と全く反するものです。そもそも聖書というのは神の言葉で、「最初にロゴス、言葉があった」と言っているわけ

でしょう。ということは、ロゴスは間違わないんですよ。そういうロゴス中心主義の言語観に対して、「言葉は海で、我々はそこで泳がされているに過ぎない」というのは正反対です。

さきほど「笑い」のことをおっしゃったけれど、三浦さんはブログ「港町横濱よもやま日記」で俳句を載せているじゃないですか。西脇順三郎は「詩というものは諧謔と叙しさだ」と言っている。つまり『とじえね』と『笑い』というのが一緒にある」というのが日本的な俳諧の詩のありようで、それを三浦さんもやっています。一つ伺いたいのですが、俳句ってなんでやっているんですか? 俳諧に執着しているのは、それは何かそこに三浦さんの身体的に響き合うものがあるからでしょうか?

三浦 始まりは、もう十三年前だったかな。出先での打ち合わせが終

わって建物の中から外に出たときに、空は晴れているのにバーツと雨が降ってきた。そのときにかぶっていたバナマ帽の縁に雨が当たる音が、バチバチバチって、蛇の目傘にでも当たっているようで。「もう二十一世紀に入っているのに、江戸時代に戻ったみたいだ。これは俳句の世界か」と思ったのが一番大きなきっかけでした。

バナマ帽から始まった俳句ですけど、身体性を伴いつつ言葉について考える機会が多く楽しいです。たとえば有季定型の場合は季語がありますが、一つの季語に対して、どんな人が、どんな思いを籠めたか、というのが付着している。それを「邪魔」ととるか、「土俵」として踏ま

えながら詠むか。自分の身の置き所によって変わってくると思います。が、季語を信頼して五七五を詠んでいると、楽しくなってくる。

俳句は五七五だから十七音の短詩



末松裕基氏

ことで、味を占めた(笑)。

**末松** 中条先生は「自分はもしかしたら無責任な読者かもしれない」とおっしゃったけれど、中条先生は、『マンガの論点——21世紀の日本の深層を読む』の中で、「世界解釈の器」という言葉を使われていた(幻冬舎新書、一二頁)。マンガとか映画を中条先生は、「歴史性」「批評」「事象」で評価していきながら、「この映画を見て感動しました、泣けます」とかじゃなくて、歴史の上にしつかり立たせようとしているじゃないですか。

また、『中条省平は二度死ぬ』の中でも、「政治の世界においてすべてを破壊してもかまわない」という思想はテロリズムとニヒリズムに行きつくほかないだろうが、芸術の世界においては、その思想が許される」と述べられていました(清流出版、三三頁)。自分が直接的に世界を変えたり、感じたりするときに、血みどろになって戦うということだけが正義ではなくて、実は文学とか映画の中で、世界を覆したり、時空だけではなくて、本当に価値観を変えてしまったりしていい、ということだと思います。三浦さん本人としては、「嘘をつくのがおもしろい」と言っただけかもしれないけれど、読んでいるほうとしては、「物事を変えられるかもしれないんだ」と感じます。

**中条** ジル・ドゥルーズが『シネマ』という本で、一番最後に、ほとんどそこまでの文脈と関係なく、「映画

というものを支えているのは、世界に対する信頼だ」ということを言い出すわけです。何もかも吟味し尽くして論議し尽くして、自殺しちゃった人ですが、あの『シネマ』の最後のところだけ、あれはドゥルーズがあまりにもいろいろな物事を徹底して考え詰めた先で、「死なないためには世界への信頼を持つているほかない、世界への信頼がなければ、本も映画もつくれない」というふうな思っで、書いてしまったんだと想像します。

そういう意味での「世界への信頼」が、三浦さんの本にはありますよ。「自分が無になっても全然構わない、世界は厳然としてある」という東洋的なニヒリズムが三浦さんの底にあると指摘したけれど、でもそれだけだったら、本を読んだり、ましてや本を書いたりするということがない。そういうニヒリズムを持ちながら、やはり「世界への信頼」があるんですよ。

### 「日記・歳時記・水田稲作」

**三浦** 春風社を起したのが一九九九年十月一日で、ブログ「港町横濱」もやま日記は、そこから半年くらい遅れて始めました。春風社は二〇二一年十月から二十三年目に入りますが、このブログももう二十一年はつづけていることになる。

朝四時に起きて、前の日を思い出して、まずブログを書く。その営みが私にとっては、末松先生がおっしゃるように、ひとつ大事な「世界への信頼」となっているんだと思います。

「日記・歳時記・水田稲作」と題した七月七日に書いたブログを読みあげます(『文の風景』には未収)。読売文学賞をとられたドナルド・キーンさんの『百代の过客』を引用しました。

日本兵の日記は、もう一つ別な理由からも私を感動させた。アメリカの軍人は、日記を付けること

を固く禁じられていた。敵の手に渡ることをおそれたことである。しかしこれは、アメリカ人には何等の苦痛も与えなかった。どちらにしても、日記を付ける人間など滅多にいなかったからである。ところが日本の軍当局も、日記が敵を益するおそれがあることは重々承知していたにちがいないが、陸海軍共に、軍人が日記を付けるのを禁止することはなかった。

それどころか、日本の軍人には、新年になるとわざわざ日記帳が支給されて、この頃の学童がも似て、必ず日記をつけるようにと命じられたのである。おそらく日本の士官たちは、その中に真の軍人精神が表れているかどうかを調べるために、定期的に兵隊の日記を読んだのであろう。あるいは、日記を付けるという行為が、日本の伝統の中にあまにも確固たる地位をしめているので、それを禁じるのは、むしろ逆効果となるおそれがあることを、知っていたのかもしれない。理由はともかく、結果としては膨大な量の日記が、日々生産されることになったのである。(ドナルド・キーン『著/金関寿夫「訳」『百代の过客』講談社学術文庫、二〇一一年、二五―六頁)

それを踏まえて、私の地の文です。

来月九十歳になるわたしの父は、二十代の頃から日記をつけ始めた。昭和四十三年(一九六八)には、反当り収量が相当多かつたらしく、石川理紀之助(二八四五一―一九二五「秋田の二宮尊徳」と言われた人)が始めた種苗交換会にとけを出し、県の農業協同組合から表彰されている。昭和四十三年といえは、わたしが十一歳、小学五年生のときのこと。

さて、上で引用したドナルド・キーンさんだが、この本の冒頭で、日記が、小説や随筆その他の文

学形式に劣らぬぐらい重要と考えられているのは、世界広しといえども日本だけである、と喝破している。キーンさんは、「理由はともかく」と記しているが、わたしはそのことが気にかかる。わたしの想像をいえば、日本人が日記をつけるのは、水田稲作によって錬成された精神によるものではないか、ということだ。日本は海に囲まれた島国で、険しい山々が連なり、自然環境ゆたかとはいわゆる、気候変動が激しく、台風に見舞われることが多い。日本の原風景として、テレビでもよく棚田が紹介されるが、わたしの田舎もそうだったように、平地はそこそこあるにしても、日本はかつて、どこもかしこも棚田だらけだっただろう。狭い土地に稲を植え、米を育て、多収穫をまくろめば、自然と労働集約的にならざるを得ない。日々の努力と研鑽が何よりも必要だ。

二宮金次郎を代表的日本人のひとりに挙げた内村鑑三は、その意味で慧眼だったと思われる。米の収穫量を多くするためには、気象

三浦衛



を睨み、経験を積み、日々の努力が欠かせない。去年、おとしし三年前、四年前、二十年前のきょう、田仕事として自分は何をしてきたか、それを記録する日記は、ことしの収穫をもたすためのいわば「仕事師の手帳」ともいえる。二宮金次郎も日記をつけていた。日記ともう一つ、歳時記のことが気にかかる。俳句をやるものにとつて歳時記は欠かすことができないが、わたしは、季節の細かな移ろいに敏感な、いわば歳時記的な感性も、水田稲作によって鍛えられたものであると考える。日本に水田稲作が伝えられたのは、紀元前九五〇年ごろ。古事記、日本書紀、万葉集の成立が八世紀であるから、この間、一六〇〇、一七〇〇年の時間が流れている。そのあいだにも、数えきれないほどの大型の台風が襲ってきただろう。季節季節の移ろいの中で、気象の変化にもめげずに収穫の最大化を目指し工夫することで、やがて余剰の米を生産できるようになり、権力者の登場を歴史に用意し、古墳時代を現出させるに至ったのではないかと。乱暴な、また勝手な想像にすぎないけれど、そんなことを外していない気がする。父は、齢九十を目前に、指がだんだん利かなくなっているけれど、鉛筆を五本指で握りしめ、相変らず、日記をつけている。

キーンさんに言わせると、いろいろなジャンル、エッセー、小説があるけれど、日本文学というのは、極論すると日記文学なんだということだ。たとえば『枕草子』。季節を追いつながらいろいろな感想を記していますが、その点で日記的です。清少納言は田植えをしている早乙女の姿を見、後ろ向きに苗を植えていくものだから、何をやっているんだろうと不思議に思った。このシーンについて言えば、清少納言にだって、日本に伝えられた水田・稲作の伝統、日本の風土の中で鍛えられた感性が

ずつとあり、それが彼女にも流れ込

んでいるはずだけれど、ただそれを彼女は知らないだけ、私はそういうふうに感じます。

『源氏物語』にも、「受領」のことが書いてある。地方に役人として赴任し、何年かしてまたこちらに戻ってくるという人が歌をつくるとき、生活基盤としての農業を感じさせる場面がちりちりと出てくる。紫式部は日々の暮らし、食事とかどうしているのかと疑問には思っていたけれど、キーンさんの『百代の过客』を読むにつけ、ますますそういうことを思いますね、「日記文学なんだ」と私は毎朝四時に起きて、まずはパソコンを立ち上げ、前の一日を思い返し、「すこしでも人様に読んでもらえるものを。さて、きのう何かあったかな」というふうにして種を探すとたとえば「クモ一匹、一週間ずつと同じところにいるな」ということから、何行かの文章を書く。牽強附会になるかもしれないが、「虚無的でありながら、しかし世界を信頼する」ということに、つながるのではないのでしょうか。

身を粉にして働きながら、自分の暮らしのすべてを歌に託す。それは「世界への信頼」があつて初めてできることです。一日、朝起きてから寝るまでどんなふうに通じたか、それを歌にし、布団に就く。そういう人生だったのではないのでしょうか。七十一歳で亡くなるとき、死について尋ねられると、「それは私の仕事ではありませぬ」と答えた。ニヒリズムかもしれないけれど、一日一日の過ごし方としては、やはり「世界への信頼」があつてできることではないかと思えます。そういう優れた先人たちから少しでも学びたいという気持ちです。今日はどうもありがとうございました。(一)

### 暮らしてすべてを歌にして

**中条** ちよつと感動しています。「毎朝、書くことから生まれた本が、日本の稲作文化の伝統ともつながり、日記文学の末裔でもあり、そこには世界の信頼を宿している」ということには、広がりや深みがあります。

**三浦** それはありがたいですね。末松 私が生きてきたのが、二〇一五年の九月です。約五年強、私と三浦さんとの関係はどうだったのか。タイムリーにブログを読んでいただいたのですが、改めて『文の風景』を読んで、いろいろなことを考えたり、それこそ、春風社から出した本のことも考えて、ものすごくいろいろな感情を思い出しました。そして三浦さん自身が二〇一〇年から、どんなふうな時間を生きてきたのか、想像できました。わざわざ

これは本になつたからこそです。

**三浦** 毎日暮らして「世界への信頼」というのは、とても大事なことだと思えます。二〇一八年に甲子園で準優勝した秋田の金足農業高校には石川理紀之助の「寝ていて人を起こすことなかれ」という言葉が彫られた石碑があります。自分がまだ休んでいるのに、「ほらさつさと起きて、これをしなさい、あれをしなさい」と言うなということ、今の政治家とは真逆の姿です。

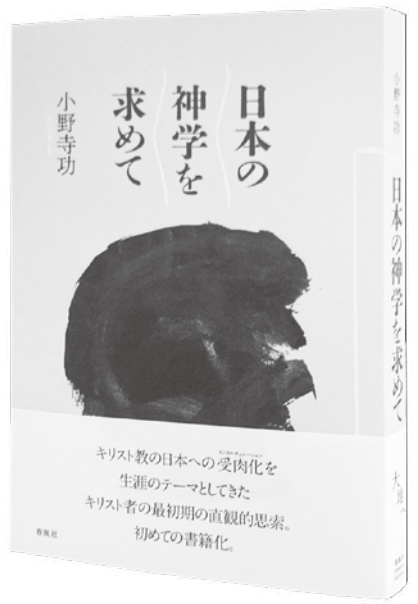
この人は子どもときから、歌人、歌詠みになりたかつたらしい。九歳のときに、「碗にも酒を飲まする寒さかな」と詠んだ。碗の水も凍るの、祖父が、凍らないように酒を入れるのを見て知っていた九歳の少年が、そんなふうな歌を詠み、みんなたまたま。農業指導者として、いろいろなところに招かれ、朝一時に起きて、農業のことをやってみただけでも、和歌を詠むことを離さない。生涯、三十万首の歌を詠んだといわれています。

身を粉にして働きながら、自分の暮らしのすべてを歌に託す。それは「世界への信頼」があつて初めてできることです。一日、朝起きてから寝るまでどんなふうに通じたか、それを歌にし、布団に就く。そういう人生だったのではないのでしょうか。七十一歳で亡くなるとき、死について尋ねられると、「それは私の仕事ではありませぬ」と答えた。ニヒリズムかもしれないけれど、一日一日の過ごし方としては、やはり「世界への信頼」があつてできることではないかと思えます。そういう優れた先人たちから少しでも学びたいという気持ちです。今日はどうもありがとうございました。(一)

# 哲学・思想・宗教

## 日本の神学を求めて

小野寺功 (清泉女子大学名誉教授)  
キリスト教の日本への受肉化(インカルネーション)を生涯のテーマとしてきたキリスト者の最初の直観的思索。初めての書籍化。  
四六判並製・二六八頁 定価(2200円+税)  
ISBN 978-4-86110-809-9



◎各書籍の左下に¥で示している数字は税抜価格です。

日常の冒険 ホワイヘッド、経験の宇宙  
佐藤陽祐 (中央大学助教授)  
生きる(という)ことは、何かとかがわり合うことである——  
多様な関係からいかにして知覚主体としての「わたし」が生まれるのか。  
ISBN 978-4-86110-748-1 ¥3800

### カントとシンカテシス論

福田喜一郎 (鎌倉女子大学教授)  
命題において表される知識とこれに対する心の関わり方を、「シンカテシス(同意)」の諸局面の検討・その本性の探求を通して問う。  
ISBN 978-4-86110-713-9 ¥5600

### スマホと哲学

岩崎大 (東洋大学東洋学研究所客員研究員)  
哲学は、すべてに役立つ便利な情報ではない。著名な哲学者の格言を引っ張り出すことで、もたない。「よく生きる」ことを企図する作法とは。  
ISBN 978-4-86110-736-8 ¥1800

### 環境を批評する—英米系環境美学の展開

青田麻未 (群馬県立女子大学講師)  
ISBN 978-4-86110-698-9 ¥4000  
小鳥が歌う—古いホルトガル語による聖母マリアの詩 菊地章太 (東洋大学教授)  
ISBN 978-4-86110-694-1 ¥3600

16世紀後半から19世紀はじめの朝鮮・日本・琉球における「朱子学」遷移の諸相 片岡龍 (東北大学教授) ISBN 978-4-86110-681-1 ¥5400

死ぬ権利はあるか—安楽死 尊厳死 自殺幇助の是非と命の価値 有馬斉 (横浜市立大学准教授) ISBN 978-4-86110-624-8 三刷 電子版あり ¥4300

朝鮮儒学の巨匠たち 韓亨祚 (韓国学中央研究院教授) 著/片岡龍 (東北大学教授) 監・解説/朴福美 (韓国語教室主宰) 訳 ISBN 978-4-86110-500-5 ¥5500  
「たゞ人間であること」が持つ道徳的価値—相互に尊重し合う自由で平等な個人が築く民主主義 浜野研三 ISBN 978-4-86110-636-1 ¥3500

### 論理学 はじめの歩—オイラー図とベン図で知る伝統的論理学

菅沢龍文 (法政大学教授) ISBN 978-4-86110-738-2 ¥1300  
日本におけるイスラーム研究史—中国篇 アリム・トヘテイ (東北大学助教授) ISBN 978-4-86110-632-3 ¥4000

### キルケゴールの実存解釈—自己と他者

河上正秀 (筑波大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-597-5 ¥3500  
深い河の流れ—宗教多元主義への道 長谷川 (間瀬) 惠美 (桜美林大学准教授) ISBN 978-4-86110-604-0 ¥2200

### そこには何かがある—「この自分」が在るといふ不思議

牟田隆郎 (元聖学院大学教授) ISBN 978-4-86110-612-5 ¥1800  
人間形成としての教養—ハンガリー、フィンランド、日本におけるドイツ的教養の受容と授業展開 高橋輝暁 編 ISBN 978-4-86110-596-8 ¥2000

律から密へ—晩年の慈雲尊者 秋山学 (筑波大学教授) ISBN 978-4-86110-600-2 ¥5500

巫者のいる日常—津軽のカミサマから都心のスピリチュアルセラピストまで 村上晶 (駒澤大学講師) ISBN 978-4-86110-558-6 二刷 ¥3500

哲学はじめの一步 楽しむ/働く 立正大学文学部哲学科 編 楽しむ ISBN 978-4-86110-541-8 働く ISBN 978-4-86110-542-5 各 ¥1500  
哲学はじめの一步 全四巻函入 立正大学文学部哲学科 編 ISBN 978-4-86110-459-6 二刷 ¥3241

### 鈴木大拙の「日本的霊性」—エマヌエル・スウェーデンホルム 新井奥達との対比から

那須理香 ISBN 978-4-86110-554-8 ¥4500  
教えることの哲学 ジョン・パスモア 著/小澤喬 (東京理科大学名誉教授) 訳 ISBN 978-4-86110-376-6 ¥4100

### 姿を変えたキリスト—みなし子を育てたシスターたち

菊地章太 (東洋大学教授) ISBN 978-4-86110-475-6 ¥2200  
思想家としての石橋湛山—人と時代 山口正 (石橋湛山記念財団評議員) ISBN 978-4-86110-472-5 二刷 ¥3000

### 徂徠と奥達

末木恭彦 (駒澤大学教授) ISBN 978-4-86110-494-7 ¥3500  
随想 西田哲学から聖霊神学へ 小野寺功 (清泉女子大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-464-0 ¥3500

エゴ・ファンタジー—環境への感度を拡張するために 山田利明 (東洋大学名誉教授)・河本英夫 (東洋大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-468-8 ¥3500

越境する哲学—体系と方法を求めて 村上勝三 (東洋大学名誉教授)・東洋大学国際哲学研究センター 編 ISBN 978-4-86110-478-7 ¥5500

## 長谷川宏

# 日々の風

暮らしのなかの哲学

### 24 地域の共同性

執筆中の『日本精神史・近代編』も終盤を迎え、戦後の作家として石牟礼道子、中上健次、木下順二を連続して論じる次第となり、村落共同体ないし地域共同体にいきりに思いをめぐらすことになった。

島根県の田舎町に生まれ、高校卒業までそこで暮らしたわたしには、地域の共同性を論じるとなると、故郷での生活経験が考えの土台となるのはごく自然なことだが、振り返って若いころの自分が、生まれ育った共同体にたいし強い反発の気持ちを懐いていたことに改めて気づき、いささか驚いている。西洋がぶれの「民主主義」少年(青年)には、地域の共同性が窮屈で不自由・不平等な封建制のしがらみとしか思えなかったのだ。

大学・大学院時代は独り身の気安さもあって、まわりの世界をしがらみと意識する度合いは格段に小さくなった。

が、三十歳で家庭をもち、住宅地で小さな学習塾を始めたとなると、地域共同体に背を向けて生きることは可能でもないし、賢い生きかたでもなかった。地域のしがらみのなかに身を置きつつ、しがらみを少しでもゆるや

かなものへと、また自由で平等なものへと変えていくのが当を得た生きかただと思われた。そんな首都圏の住宅地での生活がすでに五十年の長きに及ぶ。子ども相手の塾の教室は自宅の敷地内にあり、息子、娘の四人が小・中・高とも近所の学校に通ったから、地域とのつながりは年とともに確実に深くなった。

八十歳を越えたいま、わたしはそのつながりを総じてありがたいものに思う気持ちが強い。うまく行かない例、行かなかった例はいくつもあるが、それ以上の楽しみとゆたかさをそこから得てきたと思う。なにより、普段顔を合わせる人にそこはかたない信頼感をもてることが大きい。

そういう地域の共同性のおもしろさは、封建制とか近代とかの枠組を超えた、人間にとって生きる根源に位置するものだと思う。冒頭に挙げた三人の戦後作家もその根源に光を当てようと力を傾けているが、これらの作品を読み進みつつ、根源にさかのぼることが強靱な近代批判の方法たりうると思ったことだった。(哲学者)

### 新井奥達

死生学—死の隠蔽から自己確信へ 岩崎大 (東洋大学東洋学研究所客員研究員) ISBN 978-4-86110-438-1 ¥3982  
虚構の形而上学—「あること」と「ないこと」のあいだで 中村靖子 (名古屋大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-436-7 ¥3500

### リハビリテーションの哲学あるいは哲学のリハビリテーション

稲垣論 (東洋大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-303-2 三刷 ¥2381  
横超の倫理—ローティ、ハイエク、シンガーを超えて 谷口隆一郎 (聖学院大学教授) ISBN 978-4-86110-393-3 ¥3333

### 直接知の探求—西田・西谷・ハイデッガー・大拙

松丸壽雄 (獨協大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-347-6 ¥4000  
〈文化〉の思想—現代日本の位置から 西欣也 (甲南大学教授) ISBN 978-4-86110-323-0 ¥2200

犠牲と身代わり—記憶できないものをめぐって 長田陽一 (京都光華女子大学教授) ISBN 978-4-86110-275-2 ¥2200

『方法叙説』をめぐる六つの試論—「日本の思惟と西欧の思惟」に在する深淵 小林利夫 著・徳永雅 編 ISBN 978-4-86110-254-7 電子版のみ ¥3619

### 幻想と怪奇の英文学

シリーズ  
幻想と怪奇の英文学 東雅夫(アンソロジー、評論家)・下楠昌哉(同志社大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-404-6 一刷 ¥2700

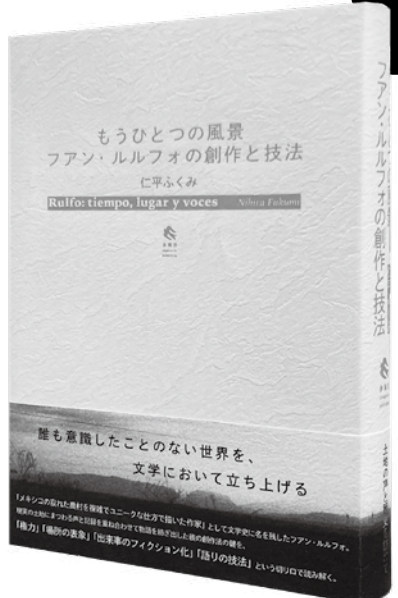
### 幻想と怪奇の英文学II—増殖進化編

東雅夫・下楠昌哉 編 ISBN 978-4-86110-516-6 ¥3200  
幻想と怪奇の英文学III—転覆の文学編 東雅夫・下楠昌哉 編/ローズマリー・ジャクスン 著/下楠昌哉 訳 ISBN 978-4-86110-622-4 ¥3700

### 幻想と怪奇の英文学IV—変幻自在編

東雅夫・下楠昌哉 編 ISBN 978-4-86110-699-6 ¥3000





## もうひとつの風景 ファン・ルルフォの 創作と技法

「メキシコの寂れた農村を複雑でユニークな仕方でも描いた作家」ファン・ルルフォ。土地の声と記録を重ね合わせた彼の創作法の鍵を読み解く。  
A5判上製四三三頁 定価(4500円+税)  
ISBN 978-4-86110-784-9

## 書きかえる女たち

初期近代英国の女性による  
聖書および古典の援用  
竹山友子 (関西学院大学教授)



聖書や古典作品などの権威ある書物を巧みに書きかえ、キリスト教にもとづく男女の規範に挑んだ女性たちの執筆活動を明らかにする。  
四六判上製・三四六頁 定価(3900円+税)  
ISBN 978-4-86110-780-1

## 《線》で読む ダイケンス

速記術と想像力  
松本靖彦 (東京理科大学教授)



ダイケンスの作品世界で練り広げられるドラマを《線》にまつわる問題として捉え、人物造形における想像力の働き方を解き明かす。  
四六判上製・三〇〇頁 定価(3600円+税)  
ISBN 978-4-86110-747-4

## 戯作者の命脈

坂口安吾の文学精神  
大原祐治 (千葉大学教授)

無数/無名の「ラムネ氏」たちが「自らの生を尊び、パトンを渡す」す反復に歴史の実相を見る戯作者の魂。安吾もまた一人の「ラムネ氏」だ。  
四六判上製・三九六頁 定価(4000円+税)  
ISBN 978-4-86110-811-2



希望の本質―サミュエル・ジョンソンの思想と文学 石井善洋 (広島修道大学教授) ISBN 978-4-86110-776-4 ¥3500  
我、アメリカノ敵ヲ発見セリ―ハイムラインの青年向け小説における日人性 鳥克也 (安田女子大学講師) ISBN 978-4-86110-746-7 ¥3900  
漱石論集 二つのゆぐえ 斉藤恵子 (大妻女子大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-763-4 ¥4500  
日本英語文化学会創立45周年記念論文集 英語文化研究 日本英語文化学会編 ISBN 978-4-86110-745-0 ¥4000  
ジェイン・オースティンのクロテスクな笑い―困った人たち 岡本由恵 ISBN 978-4-86110-731-3 ¥3600  
モダニズムの胃袋―ヴァージニア・ウルフと同時代の小説における食の表象 大西祥恵 ISBN 978-4-86110-690-3 ¥2700  
異形のビョウリタン―ジョン・ウインズロップ・シムリアとトランスアトランティック・トランザクション 佐藤憲一 ISBN 978-4-86110-712-2 ¥3900  
ブルーロックの世界―T・S・エリオットの限りなく悩めるもの 遠藤光 (実践女子短期大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-672-9 ¥4500  
スコットランド文学の深層―場所・言語・想像力 木村正俊 (神奈川県立外語短期大学名誉教授) 編 ISBN 978-4-86110-689-7 ¥3700  
American Measure: William Carlos Williams's Vision of Free Verse 吉田亞矢 (京都大学特定講師) ISBN 978-4-86110-732-0 ¥5000  
中世英語文学研究の多様性―その展望 菊池清明・岡本広毅 編 ISBN 978-4-86110-714-6 ¥8000  
最強の男―三國志を知るために 竹内真彦 (龍谷大学教授) ISBN 978-4-86110-702-3 ¥2000  
個から群衆へ―アメリカ国民文学の鼓動 佐久間みかみ (学習院女子大学教授) ISBN 978-4-86110-663-7 ¥3400  
神西清の散文問題 小林実 (十文字学園女子大学教授) ISBN 978-4-86110-667-5 ¥3900  
ポール・ボウルズ 越境する空の下で 外山健二 (山口大学教授) ISBN 978-4-86110-683-5 ¥4500  
Shakespeare Performances in Japan: Intercultural-Multilingual-Translingual 浜名恵美 (筑波大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-657-6 ¥5500

救いと寛容の文学―ゲートからフォークナーまで 今村武 (東京理科大学教授) 他 ISBN 978-4-86110-654-5 ¥3500  
めぐりめぐってトランスたち―フロンテ文学の遺産と影響 惣谷美智子・岩上はる子 編 ISBN 978-4-86110-629-3 ¥3500  
村上春樹 精神の病と癒し 南富鎮 (静岡大学教授) ISBN 978-4-86110-652-1 ¥2700  
『ターソン』を読む―ウィリアムズの長篇詩 江田孝臣 (早稲田大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-645-3 ¥3500  
ジョイスの拡がり―インターテキスト・絵画・歴史 田村章 (金城学院大学教授) ISBN 978-4-86110-625-5 ¥3500  
未完のカミュー 絶えざる生成としての揺らぎ 阿部いづみ (東北文科大学教授) ISBN 978-4-86110-623-1 ¥3700  
翻訳とアダプテーションの論理―ジャンルとメディアを越えて 今野喜和子 (静岡大学名誉教授) 編 ISBN 978-4-86110-621-7 ¥3500  
D・H・ロレンスと雌牛スーザン Wティンダル 著/木村公一・倉田雅美・小林みどり 訳 ISBN 978-4-86110-627-9 ¥4000  
揺れ動く「保守」―現代アメリカ文学と社会 山口和彦 (上智大学教授)・中谷崇 (横浜国立大学准教授) 編 ISBN 978-4-86110-609-5 ¥3500  
黙って踊れ、エレクトラ―ホフマンスタールの言語危機と日本 関根裕子 (早稲田大学他非常勤講師) ISBN 978-4-86110-637-8 ¥4200  
非在の場を拓く―文学が紡ぐ科学の歴史 中村靖子 (名古屋大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-635-4 ¥4100  
アメリカは日本文化をどう読んでいたか―村上春樹、吉本ばなな、高橋駿、押井守、芳賀理彦(敬愛大学准教授) ISBN 978-4-86110-605-7 ¥3000  
エミリー・ディキンソンを理詰めで読む―新たな詩人像をもとめて 江田孝臣 (早稲田大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-605-7 ¥3000  
アレゴリーで読むアメリカ/文学―ジェンダーとコジックの修辭学 武田悠一 (元南山大学教授) ISBN 978-4-86110-569-2 ¥3500  
『フィネガンズ・ウェイク』のプロローグを読む―Iverna から phoenix へ 奥田良二 (東海大学教授) ISBN 978-4-86110-575-3 ¥3000  
一人の詩人と二人の画家―D・H・ロレンスとニューメキンコト・メリル 著/木村公一・倉田雅美・伊藤芳子 訳 ISBN 978-4-86110-498-5 ¥4100

外見の修辭学―一九世紀末アメリカ文学と人の「見た目」を巡る諸言説 福井崇史 (國學院大学教授) ISBN 978-4-86110-581-4 ¥4000  
クロテスク・美のイメージ―ドムス・アウレア、ピラネージからフロヘルまで 武末祐子 (西学院大学教授) ISBN 978-4-86110-588-3 ¥3200  
文学という名の愉楽―文芸批評理論と文学研究へのアプローチ 寒河江光徳 (創価大学教授) ISBN 978-4-86110-595-1 ¥2200  
身体と感情を読む―イギリス小説―精神分析、セクシュアリティ、優生学 武田美保子 (京都市女子大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-582-1 ¥2700  
世紀末の長い黄昏―H・G・ウェルズ試論 宗洋 (高知大学准教授) ISBN 978-4-86110-550-0 ¥2700  
松本清張の葉脈 南富鎮 (静岡大学教授) ISBN 978-4-86110-557-9 ¥2700  
キャサリン・マンスフィールド―荒地を吹き渡る風のように自由 手塚裕子 (川村学園女子大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-553-1 ¥3200  
文学都市ダブリン―ゆかりの文学者たち 木村正俊 (神奈川県立外語短期大学名誉教授) 編 ISBN 978-4-86110-518-0 ¥3700  
カポーティ小説の詩的特質―音と文彩 大園弘 (九州国際大学教授) ISBN 978-4-86110-521-0 ¥3200  
バルザックの文学とジェンダー―女性作家との比較から分かること 東辰之介 (駒澤大学教授) ISBN 978-4-86110-533-3 ¥3600  
スコットランド、一八〇三年―ワーズワス兄妹とコールドリッジの旅 安藤潔 (関西学院大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-529-6 ¥2700  
帝国と文化―シェイクスピアからアントニオ・ネグリまで 江藤秀一 (常葉大学学長) 編 ISBN 978-4-86110-517-3 ¥3500  
パブリック圏としてのイギリス演劇―シェイクスピアの時代の民衆とドラマ 中村友紀 (関東学院大学教授) ISBN 978-4-86110-501-2 ¥3000  
T・S・エリオットの詩を解読する 滝沢博 (元高岡法科大学教授) ISBN 978-4-86110-476-3 ¥2200  
フロンテ小説における病いと看護 川崎明子 (駒澤大学教授) ISBN 978-4-86110-427-5 電子版あり ¥3500  
秘密のフレイガン―戦後英国演劇のなかのトランス・メディア空間 大谷伴子 ISBN 978-4-86110-448-0 二刷 ¥2700

マーガレット・オブ・ヨークの「世紀の結婚」  
英国史劇とブルゴニコ公国 大谷伴子  
ISBN 978-4-86110-419-0 一刷 ¥2700

交錯する戦争の記憶―占領空間の文学  
黄益九 (在日コリアン研究所)  
ISBN 978-4-86110-422-0 ¥3300

アントニオ・タフッキ 反復の詩学  
花本知子 (京都外国語大学准教授)  
ISBN 978-4-86110-358-2 ¥3000

カズオ・イシグロー「日本」と「イギリス」の間から 莊中孝之 (京都女子大学教授)  
ISBN 978-4-86110-255-4 三刷 ¥3000

ビュッシー・ダンボア  
ジョージ・チャップマン 作  
川井万里子 (東京経済大学名誉教授) 訳  
シェイクスピアのライヴアル劇詩人の最高傑作。一六世紀フランス宮廷における愛と死の悲劇に、人間の根本的な非合理性が描かれる。  
ISBN 978-4-86110-777-1 ¥3100

こころの気づき―カフカの短篇を読む  
松原好次 (元電気通信大学教授)

外国語教育や少数言語の研究に携わってきた著者が、自身の経験と生活を、そしてカフカを読むことを通し、こころを見つめたエッセイ集。  
ISBN 978-4-86110-754-2 ¥2700

# 文学・エッセイ

## わたしの学術書

博士論文書籍化をめぐる

春風社編集部 編

生きていくなかで「深く学ぶこと」を軸に据え、学術出版社・春風社で博士論文を出版した研究者総勢五八名による、博論書籍化体験記エッセイ。「研究」とのいろいろな付き合い方、「出版」までのいろいろな道程が見えてくる！  
A5判並製・五〇頁 定価(2000円+税)  
ISBN 978-4-86110-761-0



## アヴェレルノ

ルイス・グリニョック 著

江田孝臣 (早稲田大学名誉教授) 訳

自伝は神話化され、神話は自伝化される。抒情と暗示と謎に富むその作品は、読む者をも魂との対話に誘ってやまない。二〇一〇年ノーベル文学賞受賞。今を時めく女性詩人の第一〇詩集、日本初訳。  
四六判変形上製・二七六頁 定価(2000円+税)  
ISBN 978-4-86110-792-4 一刷



## ユゴー詩アンソロジー

### 夏の雨・冬の大使

ヴィクトル・ユゴー 著

宇多直久 (元滋賀大学講師) 訳

ユゴーの古典的研究者パレールの「人間の側にあるのはエロス、自然の側にあるのは牧羊パン」の思想を踏まえ、精選した愛惜の訳詩五〇余篇。  
四六判上製・四三六頁 定価(4000円+税)  
ISBN 978-4-86110-810-5



# 翻訳ピンチ!

中条省平 SHOHEI CHUJO

28

## プルースト翻訳始末記 その1

この春休みはプルーストにかりかりでした。発端はついぶん前にさかのぼります。今から15年前、フランスでマンガ版になった『失われた時を求めて』を訳したことがあって、第1巻の『コンプレ』と第2巻の『花咲く乙女たちのかげに(前半)』を出すことができました。意外に評判がよくて、例えば、のちに火事で焼死する評論家の川勝正幸さんは、あるカフェでフランスコミック版『失われた時を求めて』をめぐるトークショーを催し、私も参加しました。その時、川勝さんは、イギリスのテレビ番組『空飛ぶモンティ・パイソン』に「全英プルースト要約選手権」というエピソードがあるのを教えてくださいました。この回はあまりにマイナーなので日本のテレビでは放映されなかったのですが、川勝さんはそのトークショーに英国版のビデオを持参して、上映したのです。「全英プルースト要約選手権」とは、長大にして難解な小説『失われた時を求めて』を、たった15秒で要約するという無謀な試みに挑戦するコンテストの名前

で、そこに様々な奇人変人が登場してはその挑戦に敗れていく姿を描いています。さすがモンティ・パイソン。素晴らしくマニアックな、爆笑の仕上がりでした。そのフレンチコミック版のプルーストの邦訳を出してくれた版元は、白夜書房。知る人ぞ知る、パチンコと特異なエロの出版社です。私は若い頃(1980年代)、「写真時代」という過激なエロとサブカルチャーを売り物にした白夜書房の雑誌が大好きで読んでいました。赤瀬川原平が『超芸術トマソン』の連載をするなど、なんともまあ、変な雑誌だったのです。この雑誌の編集長だったのが末井昭さん。7歳のときにお母さんが若い男とダイナマイトで心中したことで有名な人です。私がコミック版『失われた時を求めて』を出したときは、白夜書房の社長になっていました。(次回に続く) (仏文学者)



イラスト: たけなみゆづり

文の風景 ときとまなま、音楽 映画  
三浦衛 (春風社代表)

学ゆりかご―母と娘のディスタンス  
春風社編集部 編

ロバート・フロスト詩集 ニューハンプシャー  
藤本雅樹 (元龍谷大学教授) 訳

鎌倉山奇譚 水琴窟の館  
ソーントン不破直子 (日本女子大学名誉教授)

ゴマシ狂騒曲―旅する「小枝通信」より  
堤小枝子 (トッセイム)

永遠なるカミノー・フランス人作家による「もう一つのサンティアゴ巡礼記」 今野喜和人 訳

荒地 T・S・エリオット 著

滝沢博 (元高岡法科大学教授) 訳・解説

説得されて ジェイン・オースティン 著

藤田永祐 (獨協大学名誉教授) 訳

イヴの娘 オノレ・ド・バルザック 著

宇多直久 (元滋賀大学講師) 訳

バルザック王国の裏庭から―リュジエリーの秘密―と他の作品集 宇多直久 (元滋賀大学講師) 編

詩集 時のなか

北岡武司 (岡山大学名誉教授)

古英語叙事詩『ヘオウルフ』―クレイバー第4版対訳 古見昭徳 (明治学院大学名誉教授) 訳

鐘の音が響くカフェで ポール・ヴァツカ 著

田村奈保子 (福島大学教授) 訳

二つの季節 松永澄夫 (東京大学名誉教授)

鎌倉三猫物語 ソーントン不破直子 (日本女子大学名誉教授)

孤独な殿様 ソーントン不破直子 (日本女子大学名誉教授)

画文集 旅の貼り絵 安田彰 (元亜細亜大学教授)

鎌倉三猫物語 ソーントン不破直子 (日本女子大学名誉教授)

お爺ちゃんとお爺さん 北岡武司 (岡山大学名誉教授) 訳

人生の請求書 石橋幸子 (カンナ社代表)

横浜の時を旅する―ホテルニューグランドの魔法 山崎洋子 (作家)

鱒 hatatada 三浦衛 (春風社代表)

カメレオン 三浦衛 (春風社代表)

マハーヴァキナまたは巫山の夢 三浦衛 (春風社代表)

父のふるさと―秋田往来 三浦衛 (春風社代表)

出版は風まかせ―おとぼけ社長奮闘記 三浦衛 (春風社代表)

谷川健一全歌集 谷川健一 (民俗学者・歌人)

お爺ちゃんとお爺さん 北岡武司 (岡山大学名誉教授) 訳

人生の請求書 石橋幸子 (カンナ社代表)

横浜の時を旅する―ホテルニューグランドの魔法 山崎洋子 (作家)

鱒 hatatada 三浦衛 (春風社代表)

カメレオン 三浦衛 (春風社代表)

マハーヴァキナまたは巫山の夢 三浦衛 (春風社代表)

鎌倉三猫いまたたひ ソーントン不破直子 (日本女子大学名誉教授)

クリスマス・キャロル チャールズ・デイケ ンズ 著・井原慶一郎 (鹿児島大学教授) 訳

デテムシ 新美南吉詩歌集 石川勝治 (長崎県立大学名誉教授・斎藤卓志(民俗学者) 編

スウェーデン民話作品集 葦下紘一 訳

IV ISBN 978-4-86110-368-1 各巻 ¥1905

いないも同然だった男 パトリス・ルコント 著・桑原隆行 (福岡大学教授) 訳

愉しみは最後に パトリス・ルコント、ダヴィッド・デカンヴィル 著・桑原隆行 (福岡大学教授) 訳

エドワード・トマス訳詩集 吉川朗子 (神戸市外国語大学教授) 訳

お爺ちゃんとお爺さん 北岡武司 (岡山大学名誉教授) 訳

人生の請求書 石橋幸子 (カンナ社代表)

横浜の時を旅する―ホテルニューグランドの魔法 山崎洋子 (作家)

鱒 hatatada 三浦衛 (春風社代表)

カメレオン 三浦衛 (春風社代表)

マハーヴァキナまたは巫山の夢 三浦衛 (春風社代表)

父のふるさと―秋田往来 三浦衛 (春風社代表)

出版は風まかせ―おとぼけ社長奮闘記 三浦衛 (春風社代表)

谷川健一全歌集 谷川健一 (民俗学者・歌人)

お爺ちゃんとお爺さん 北岡武司 (岡山大学名誉教授) 訳

人生の請求書 石橋幸子 (カンナ社代表)

# 芸術・音楽・写真



## 演劇の公共圏

藤岡阿由未 (福山女学院大学教授 訳)  
 古代ギリシャから現代のSNSにおける議論まで……多様なケーススタディをもとに「公共圏」の視点から演劇の歴史を辿り、民主主義の議論の場における「制度」として演劇がどのような役割を果たしてきたのか論じる。四六判並製・三三六頁 定価(3273円+税)  
 ISBN 978-4-86110-806-8

戦後日本のコミュニティ・シアター 特別でない「私たち」の演劇  
 須川渡 (福岡女学院大学准教授)  
 演劇に従事しない素人の演劇活動を考察。地域演劇や障害者施設での演劇実践等、多様なコミュニティにおける演劇の在り様を探る。  
 ISBN 978-4-86110-764-1 ¥4500

インド ムガル皇帝の肖像―ムガル細密画の光り輝く世界  
 宮原辰夫 (文政大学教授)  
 皇帝の回想記や欧州の旅行家・宣教師たちの旅行記を通して細密画を検証し、16〜17世紀のムガル皇帝とその一族の栄枯盛衰を描く。  
 ISBN 978-4-86110-771-9 ¥3500

ナチスと闘った劇場―精神的国土防衛とチューリヒ劇場の「伝説」 葉柳和則 (長崎大学 教授) 編 ISBN 978-4-86110-719-1 ¥4200

一九四〇年代素人演劇史論―表現活動の教育的意義 小川史 (横浜創英大学教授) ISBN 978-4-86110-717-7 ¥5000

イタリア・宝塚・2.5次元―多彩な演劇世界をめぐって 鈴木国男 (共立女子大学教授) ISBN 978-4-86110-737-5 ¥2900

半分満たされたクラス ジャズとシグナマイニング 椿清文 (津田塾大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-741-2 ¥2400

江戸の黙阿弥―善人を描く 理忠美沙 (お茶の水女子大学准教授) ISBN 978-4-86110-706-1 ¥4500

転生する物語―アタプティシヨンの愉しみ 渡辺諒 (早稲田大学教授) ISBN 978-4-86110-685-9 ¥2500

見る・見せる―中国四川・福建の表演にみる「演じる」こと・人・空間 細井尚子 (立教大学 教授) ISBN 978-4-86110-671-2 ¥4500

本の縁側 矢萩多聞 (装丁家・画家) ISBN 978-4-86110-653-8 ¥2800

明治・大正 東京の歌舞伎興行―その「継続」の軌跡 寺田詩麻 (龍谷大学准教授) ISBN 978-4-86110-631-6 ¥8000

ホベルト・ブルー・マルクスの庭にて ジャック・レナール 監修/荒井芳廣 (大妻女子大学名誉教授) 訳 ISBN 978-4-86110-594-4 ¥3200

躍動―横浜の若き表現者たち 細見葉介 ISBN 978-4-86110-640-8 ¥1800

浅草 2011-2016―六区ブロードウェイ 日本人の肖像 初沢克利 (写真家) ISBN 978-4-86110-547-0 ¥7000

すみみち 吉住小三 (長順吉住会) ISBN 978-4-86110-562-3 ¥1852

石巻片影 三浦衛 (春風社代表) 著/橋本照高 (写真家) 写真 ISBN 978-4-86110-530-2 ¥2500

石巻 2011.3.27〜2014.5.29 橋本照高 (写真家) ISBN 978-4-86110-414-5 ¥4500

【新版】北上川 橋本照高 (写真家) ISBN 978-4-86110-441-1 ¥3500

表象の京都―日本映画史における観光都市のイメージ 須川まり (流通経済大学准教授) ISBN 978-4-86110-537-1 ¥3000

「出金」といふ名の劇場―演劇に生きて 岡田正子 (演出家・翻訳家) ISBN 978-4-86110-551-7 ¥2100

母のアルバム 伊藤政子・田中典子 (清泉女子大学教授) ISBN 978-4-86110-523-4 ¥1800

利根川を往く 堀絢 (写真家) ISBN 978-4-86110-503-6 ¥4800

物語のないアニメーション―ノーマン・マクラレンの不思議な世界 栗原詩子 (西南学院大学教授) ISBN 978-4-86110-493-0 ¥3500

長唄の世界へようこそ―読んで味わう、長唄入門 細谷朋子 (研究者) ISBN 978-4-86110-400-8 三刷 ¥3400

クワラ解体 小関与四郎 (写真家) ISBN 978-4-86110-261-5 ¥15000

世界写真紀行―美しい自然と文化を訪ねて (海外編・国内編) 渋谷興一 (海外編) ISBN 978-4-86110-409-1 ¥3500

ドアの映画史―細部からの見方、技法のリテラシー 吉田暉 (元京都産業大学教授) ISBN 978-4-86110-264-6 ¥1800

邦訳「カリヴァー旅行記」書誌目録 松菱多津男 ISBN 978-4-86110-276-9 電子版のみ ¥4600

OTHER VOICES 東大全共闘・68―70 平沢豊 ISBN 4-86110-026-7 ¥2800

東洋英和女学院大学 社会科学研究叢書

メディアとしてのミュージアム 町田小織 (東洋英和女学院大学講師) 編 ISBN 978-4-86110-739-9 ¥2500

国際協力の行方―経済・開発・オルタナティブ 吉川健治 (東洋英和女学院大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-646-0 ¥2500

ハコハラ・トラウマに対する短期心理療法 岡本浩一・長谷川明弘 編 ISBN 978-4-86110-639-2 ¥2500

世界のメディアアークローバル時代における多様性 小寺敦之 (東洋英和女学院大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-591-3 ¥2500

アジアの国際関係―移行期の地域秩序 福田保 (東洋英和女学院大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-590-6 ¥2500

新時代のやさしいトラウマ治療 岡本浩一・角藤比呂志 編 ISBN 978-4-86110-545-6 ¥2500

総記・辞典・事典



都市科学事典 横浜国立大学都市科学部 編 ISBN 978-4-86110-734-4 ¥25000

「ミニニイ事典」伊藤守・小泉秀樹 三本松政之・似田貝香門・橋本和孝・長谷部弘・日高昭夫・吉原直樹 編 ISBN 978-4-86110-538-8 ¥25000

発信型 日本人が使いこなせないフランス基本単語小辞典 久松健一・Michel Gonçalves 編 ISBN 978-4-86110-563-0 ¥2500

フランス語名詞・動詞連語辞典 石川三千夫 (桜美林大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-536-4 ¥3500

スペイン語語源辞典 太田強正 (神奈川大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-332-2 電子版のみ ¥5200

異文化コミュニケーション事典 石井敏・久米昭元他 編 ISBN 978-4-86110-333-9 電子版のみ ¥7600

ニューシニアランド百科事典 フォーシニアランド学会 編 ISBN 978-4-86110-111-3 ¥9333

Dante 神曲原典読解語源辞典 (地獄) (煉獄) (天国) 福島治 ISBN 4-921146-77-2 / 4-921146-78-0 / 4-921146-79-9 各巻 ¥46000

現代日本語キョル語辞典 橋本勝 (大阪外国語大学名誉教授) / E・P・ソビギン 編 ISBN 4-921146-33-0 ¥15000

ネット空間を変えるモバイル社会 東洋英和女学院大学メディア・コミュニケーション研究所 編 ISBN 978-4-86110-444-2 ¥2500

グローバリゼーションとリスク社会 岡本浩一・パトリシア・スイッパル 編 ISBN 978-4-86110-403-9 ¥2500

# しりあがり寿 mini 大河 26 復讐



諸国にとって押谷が隣接する宇久の領地に攻め込んだのは意外ではなかった。それよりも諸国を驚かせたのは大國の押谷に対しての予想外の宇久の善戦だった。

諸国の押谷を見る目は次第に厳しくなり、それが押谷の領主風珍を苛立たせた。

風珍「うむ我が軍は何をしている！」  
 老臣「戦は霧の中といいますが、こういつつともいいます」

風珍「戦と言いな！ 特殊軍事作戦と言え！ 主権不可侵の時代に一方的な戦はまずい」

老臣「しかし、実際いきなり他国の領土に兵を進めて……」  
 風珍「非那智化と言え！ これは我が国由来の民を非道な犯罪者から守るため」

いく……でなくて特殊軍事作戦じゃー！  
 老臣「いやしかし守るはずの無辜の民を」

ここまで沢山殺めてしまつては……」  
 風珍「それは宇久の那智の仕業にしておけー」

そこへ何やら城中が騒がしくなつた。

「殿！ お覚悟！」  
 刀を振り回して数十人の男が押し入ってくる。

いく……ではなく特殊軍事作戦を嫌う勢力の謀反だった。  
 瞬く間に男たちは風珍に迫つた。

男「お命ちょうだいー」  
 風珍「そこは不可逆的な生命活動の停止と……」

次の瞬間、風珍の身体の一部が鋭利な刃物により不可逆的に他の身体の部分と分離された。



### 学校と生活を接続する

ドイツの改革教育的な授業の理論と実践

田中 怜 (育英大学講師)

一九七〇年代以降ドイツの学校教育改革を、授業実践例をもとに考究。教育の営為における学習/教授や改革/反改革の両義的な発想を捉え、学ぶことと生きることの連関を描きつつ、多視点を活かす差異に基づく授業の構想と方法を提言する。

A5判上製・三二六頁 定価(4200円+税)  
ISBN 978-4-86110-766-5



### 言語教師教育論

境界なき時代の「知る・分析する・認識する・為す・見る」教師

B・クマラヴァデーヴェル 著 / 南浦 涼介 (東京学芸大学准教授)・瀬尾 匡輝 (茨城大学准教授)・田嶋 美砂子 (茨城大学准教授) 訳

外国語・第二言語の教師教育に向けた包括的なモデルの根拠と本質を、ポスト国民国家、ポストモダン、ポストコロナル、ポスト伝達主義、ポストメソッドの視点と、場の特殊性、実践性、可能性という運用原理から再考。多様な言葉の営為のための教育の方向性を見える。

A5判上製・三三〇頁 定価(4000円+税)  
ISBN 978-4-86110-759-7

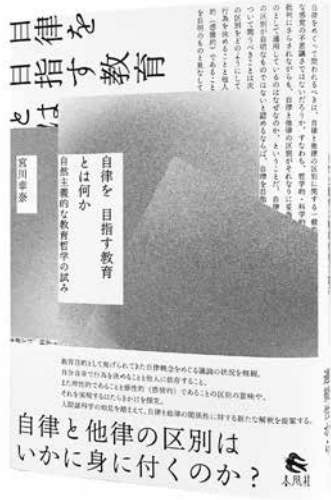
### 自律を目指す教育とは何か

自然主義的な教育哲学の試み

宮川 幸奈 (熊本学園大学准教授)

教育目的として掲げられてきた自律概念をめぐる議論を概観。自律・他律や理性的・感性的(感情的)であることとを区別する意味や、それを表現するはたらきかけを検討し、その関係性に対する新たな解釈を提案する。

四六判上製・二八八頁 定価(4000円+税)  
ISBN 978-4-86110-767-2



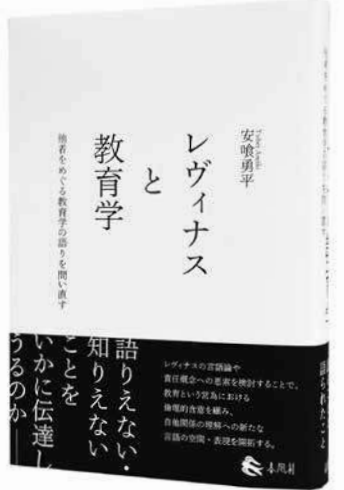
### レヴィナスと教育学

他者をめぐる教育学の語りを問い直す

安藤 勇平 (神戸市外国語大学講師)

語りえない・知りえないことをいかに伝達しうるのか——レヴィナスの言語論や責任概念への思索を検討することで、教育という営為における倫理的含意を顧み、自己関係の理解への新たな言語の空間・表現を開拓する。

四六判上製・二九〇頁 定価(4000円+税)  
ISBN 978-4-86110-765-8

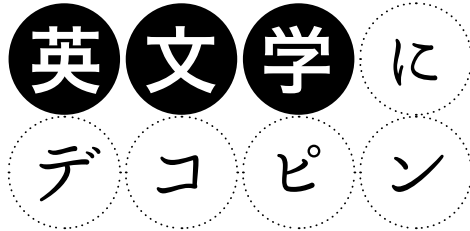


### 日本語教師の省察的実践——語りの現象学的分析とその記述を読む

香月 裕介 (神戸学院大学准教授) 日本語教師の専門知・実践知のありようを教師自身の経験から考察。主観と客観をつなぐ現象学的分析を採り入れることで、自己理解の新視点をもたらし。 ISBN 978-4-86110-760-3 ¥4500

学校づくりの概念・思想・戦略——教育における直接責任原理の探究  
石井 拓晃 (金沢大学准教授)  
戦後から現在に至る学校づくりの概念の成立過程を法制度・課程計画・実践運動の面から考察し、その自主性の内実と意義を論じる。 ISBN 978-4-86110-758-0 ¥4000

### 阿部公彦



### 15 出淵博先生の「まっすら」

大学一年生の頃、私の前のめりのガリ勉ぶりはなかなかなかった。第二外国語は独語だったが、第三外国語として仏語、羅語、さらには希語、露語まで登録した。後者二つは結局放棄したが、野心は認めてあげたい。英文学科目も多数チャレンジした。いずれも思い出深い、ここでは出淵博先生のことを書く。

二年生の時に出たイエイツ、ホプキンスなどを扱う演習は、エリザベス一世が孔雀みたいな格好で表紙に載っているペンギン版アンソロジーが教科書だった。出席者に、いつもデパートの紙袋のようなものに荷物を詰め込んで、やや遅れ目に教室に入ってくる人がいた。出淵先生も一目置いて「××さんはすれっからしだから、こんな話は退屈でしょうが」と言うと、「おほほほほ」と高らかに笑って返す(「ほ」は4つだったかもしれない)。こういう優秀な学生と先生が渡り合うのを見るのが楽しい授業だった。

出淵先生のスタンスは斜に構えているのか、ストレートなのか判断が難しい。そこに魅了された私は、本郷に移ってから駒場の授業に出た。T・S・エリオッ

トのゼミは出席者が3人。うち一人は今ではウィキペディアで「エッセイスト・服飾史家」として紹介される中野香織さんだった。授業は濃密で、濃密すぎてほとんど内容をおぼえていないのだが、変化球なのか直球なのか判別しがたい出淵節は健在で、エリオットの悪口を言いながら、一生懸命その作品を解説するのだった。モダニズムの作家はこうした「まっすら」みたいな方法が一番ふさわしい。私はこの導きのおかげで、モダニズム詩の世界に深く入り込んだ。

出淵先生とのお付き合いは大学院でさらに深まった。私が米詩人ウォレス・ステーブンスと運命的な出会いを果たしたのは、院での出淵ゼミだった。しかし、これも授業内容は濃密すぎて覚えていない。覚えているのは授業後の飲み会でビールをグラスに半杯口にするだけで天使のように酔っ払う先生の姿で(「タクシーを窓から降りた」といった証言あり)、見るからに「変化球な目つき」になった先生は、当時はまだ聳えていた英文学の頂のてっぺんに向けて愛と毒の混交した言葉の矢を放ちつづけるのであった。(英文学者)

### 観光・環境・自然

突撃! よこはま村の100人——自転車記者が行く 佐藤 将人 (神奈川新聞記者) ISBN 978-4-86110-316-2 ¥1500

瀬戸内、鳥瞰の旅——風景の奥を読む 伊藤 松雄 (四国学院大学教授) ISBN 978-4-86110-360-5 ¥1800

おはあちゃん! 豚となつて木に登る 外川 洋子 ISBN 978-4-86110-398-8 ¥1500

富士山学への招待——NPOが富士山と地域を救う 渡辺 豊博 (NPO法人「ランドフーン」) ISBN 978-4-86110-229-5 ¥1500

失敗しないNPO——クラウドワーク三島の20年とイギリスに学ぶ 渡辺 豊博 (NPO法人「ランドフーン」) 編著 ISBN 978-4-86110-353-7 ¥1500

英和の森の植物たち——感じる、遊ぶ、食へる 中池 敏之・川崎 未美 (元東洋英和女学院大学准教授) ISBN 978-4-86110-321-6 ¥2600

ベトナム語母語話者のための日本語教育 松田 真希子 (金沢大学准教授) ISBN 978-4-86110-491-6 電子版のみ ¥3600

野村芳兵衛の教育思想——往相・還相としての「生命信順」と「仲間作り」 富澤 美千子 (横浜美術大学准教授) ISBN 978-4-86110-750-4 ¥3630

外国語なかに児童生徒の教育と社会的役割——日本とニュージーランドの比較にもとづく学校教育の制度イノベーション 柿原 豪 ISBN 978-4-86110-751-1 ¥3600

19世紀フランスにおける女子修道院寄宿学校 山内 由貴 (京都府立大学准教授) ISBN 978-4-86110-735-1 ¥3600

「共生社会」と教育——南アフリカ共和国の学校における取り組みが示す可能性 坂口 真康 (兵庫教育大学准教授) ISBN 978-4-86110-726-9 ¥5400

多様化する子どもにも向き合う教師たち——継承語教育 補習授業校におけるライフストーリー研究 瀬尾 匡輝 著 ISBN 978-4-86110-693-4 ¥3300

教育のリーダーシップとハンチ・アレント  
ヘレン・M・ガンター 著 / 末松 裕基 生澤 繁 樹・橋本 憲幸 訳 ISBN 978-4-86110-704-7 ¥3000

《障害者》として社会に参加する——生涯学習施設で行うあらゆる人の才能を生かす試み 三谷 雅純 ISBN 978-4-86110-703-0 ¥4000

子どもにも生きようよ——協働愛でこそよよよ——よこはま児童文化研究所物語 立川 勲 ISBN 978-4-86110-727-6 ¥3000

芦田恵之助の教育思想——とらわれからの解放をめざして 山田 直之 (関西大学准教授) ISBN 978-4-86110-688-0 ¥4000

人生の意味を問う教室——ネル・ノディングス著 / 井藤 元 東京理科大学准教授・小水 曾田 佳 同志社大学 研究員 訳 ISBN 978-4-86110-668-2 二刷 ¥3000

空海に学ぶキャリアデザイン 益田 勉 (文教大学准教授) ISBN 978-4-86110-705-4 ¥3500

移動する女性たち——海外の日本語教育と国際ボランティアの周辺 平畑 奈美 (東洋大学准教授) ISBN 978-4-86110-638-5 ¥3241



共同体による自己形成—教育と政治のシラズ  
マニズム／ 生澤繁樹(名古屋大学准教授)  
ISBN 978-4-86110-641-5 ¥5500

主権者教育論—学校カリキュラム・学力・教師  
渡部竜也(東京学芸大学准教授)  
ISBN 978-4-86110-648-4 二刷 ¥4500

「エンパランスに基づく教育」の闘いを探る—教育学  
における規範と事実をめぐって 杉田浩崇・熊井  
将太編 ISBN 978-4-86110-658-3 電子版のみ ¥3700

The Developmental Process of Japanese Elementary School  
Teachers Associated with Teaching English while Engaged in  
Lesson Study 上原明子 ISBN 978-4-86110-634-7 ¥5900

教育と他者—非対称性の倫理に向けて  
橋本憲幸(山梨県立大学准教授)  
ISBN 978-4-86110-614-9 電子版のみ ¥4000

アメリカ人の生活と学校カリキュラム—生活に  
根差した学校に向けての次のステップブック著  
渡部竜也他訳 ISBN 978-4-86110-602-6 ¥6000

大学英语教育の質的転換—「学」場から「使  
う」場へ 佐藤響子・Carl McGary・加藤千  
博編 ISBN 978-4-86110-618-7 ¥2300

歴史的思考—その不自然な行為  
サム・ワインバーグ著／渡部竜也監訳  
ISBN 978-4-86110-555-5 二刷 ¥5100

世界初市民性教育の国家規模カリキュラム  
渡部竜也編訳  
ISBN 978-4-86110-490-9 ¥4722

真正の学び／学力—質の高い知をめぐる学校再  
建 フレッド・M・ニューマン著／渡部竜也・  
堀田論訳 電子版のみ ISBN 978-4-86110-525-8 ¥6200

コモン・グッドのための歴史教育—社会的文化的  
アプローチ レヴステイク、バートン 著／渡部  
竜也他訳 ISBN 978-4-86110-445-9 二刷 ¥6000

言葉への道—障書の重い人たちの事例研究集  
遠藤司(駒澤大学教授)  
ISBN 978-4-86110-573-9 ¥2800

教育方法改革の理論  
助川晃洋(国士館大学教授)  
ISBN 978-4-86110-578-4 ¥2000

子どもの〈内面〉とは何か—言語ゲームから  
見た他者理解とコミュニケーション 杉田浩崇  
(広島大学准教授) ISBN 978-4-86110-556-2 ¥3700

絵本から「子ども福祉」を考える  
青木文美(愛知淑徳大学教授) 編  
ISBN 978-4-86110-514-2 ¥3400

現代の学校を読み解く—学校の現在地と教育  
の未来 末松裕基(東京学芸大学准教授) 編著  
ISBN 978-4-86110-504-3 二刷 ¥2300

居場所—生の回復と充溢のトポス  
萩原建次郎(駒澤大学教授)  
ISBN 978-4-86110-566-1 電子版のみ ¥2315

留学生の見た漢字の世界—漢字学習への創造  
的アプローチ 林さよ子・関麻由美・齋藤伸  
子編著 ISBN 978-4-86110-568-5 ¥1852

人生の調律師たち—動的ドラママトゥルギー  
の展開 藤川信夫(大阪大学教授) 編著  
ISBN 978-4-86110-540-1 ¥500

キリスト教人格教育論—個人の尊厳を見つめ  
て 吉岡良昌(東洋英和女学院大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-417-6 ¥2300

いのちを育む教育学 吉岡良昌(東洋英和女学  
院大学名誉教授)・大川洋(国際基督教大学教授)  
ISBN 978-4-86110-143-4 ¥2200

アメリカ教育福祉社会史序説—ドミニク・  
ティーチャーとその時代 倉石一郎(京都大学  
教授) ISBN 978-4-86110-416-9 二刷 ¥3000

物語が始まるとき—共創教育の現場から  
青木幸子(昭和女子大学特任准教授)  
ISBN 978-4-86110-415-2 ¥1800

ワークシートで学ぶ 生徒指導—進路指導の  
理論と方法 林尚示・服部伴文・村木晃  
ISBN 978-4-86110-355-1 ¥2000

労働声・山崎高哉 共編  
日中教育者対話 I ISBN 978-4-86110-159-5 ¥2200  
日中教育者対話 II ISBN 978-4-86110-220-2 ¥2800  
日中教育者対話 III ISBN 978-4-86110-248-6 ¥3200

幼児キャンプ—雪の体験  
山梨幼児野外教育研究会 監修  
ISBN 4-921146-40-3 ¥1905

## 言語・心理



**言語環境**  
MENU  
ENTRADAS  
FRITAS  
ENSALADAS  
SOPAS  
PIQUEOS

言語・心理

言語環境から考える日本の言語環境

多文化・日本からみえてくる

看板・職・店のメニュー……。各地でのフィールドワークを通して「言語環境」を撮影・収集し、そこにみられる敬語、方言、複言語等の様相から、多文化共生が進む日本の言語環境を鳥瞰する。

A5判上製・四〇二頁 定価(4500円+税)  
ISBN 978-4-86110-793-1

## 記憶のなかの「碧南方言」



記憶のなかの「碧南方言」  
語彙・語法・音韻の特徴

記憶のなかの「碧南方言」  
語彙・語法・音韻の特徴

愛知県西三河に位置する碧南市のことを、地元での聞き取り調査によって克明に記録。生きた用例からその言語的特徴を明らかにする。

愛知県西三河に位置する碧南市のことばを、地元での聞き取り調査によって克明に記録。生きた用例からその言語的特徴を明らかにする。

A5判並製・二二六頁 定価(1800円+税)  
ISBN 978-4-86110-807-5

ともに生きるために—ウェルフェア・リング・イン  
ステイクスと生態学の視点からみることは  
教育 尾辻恵美(シエー工科大学准教授)・熊谷  
由理(シエー工科大学准教授)・佐藤慎司(フリスケン  
大学主任講師) 編「言語生態学」の視座から考  
える、社会をより豊かに(welfare)する「リ  
ング」の教育」 ISBN 978-4-86110-774-0 ¥3900

心理臨床 セラピストの身体と共感—ダンス  
／ムーブメントとフェルトセンスの活用  
山田美穂(お茶の水女子大学准教授)  
人と人との間の対話が静かな感動を招ぶ。身  
体と身体のかかわりを通じ、心理臨床の実践  
と豊かな理解に向けた真摯な問い。  
ISBN 978-4-86110-770-2 ¥4500

小学校英語「児童学習」を—絵本・ナースリー  
イム・ストーリーテリングの世界に遊ぶ 吉田真  
理子・佐藤佳子・執行智子 ISBN 978-4-86110-737-7 ¥2000

英米人名語源小辞典 エリック・パトリック  
ジ著／吉見昭徳(明治学院大学名誉教授) 編訳  
ISBN 978-4-86110-673-6 電子版のみ ¥3000

日本語学習者の読解ストラテジー—要点関係  
図の効果を探る 田川麻央(明海大学講師) 編  
ISBN 978-4-86110-707-8 ¥4400

おしゃべりなボライトネス—会話の中の共話・  
話題交換・笑い・メタファー 笹川洋子(神戸親  
和女子大学教授) ISBN 978-4-86110-642-2 ¥3500

第三言語学習と個別性 津田塾大学言語文化  
研究所言語学習の個別性研究グループ 編  
ISBN 978-4-86110-065-9 ¥1600

神奈川県の方言マックス—小田原から横浜  
質まで 坂本薫(國學院大学兼任講師)  
ISBN 978-4-86110-670-5 ¥3700

Japanese English: A Descriptive Grammar  
Kotawole Waziri Ojagboye (都留文科大教授) 編  
ISBN 978-4-86110-680-4 ¥6900

小学校英語への専門的アプローチ—ことは世  
界を拓く 綾部保志(立教池袋中学校・高等学校  
教諭) 編 ISBN 978-4-86110-647-7 ¥2000

ウェルリス語の歴史  
ジャンネット・デイヴィス著／小池剛史(大東文  
化大学准教授) 訳 ISBN 978-4-86110-608-8 ¥2700

視覚スキーマを用いた意味拡張動機づけの分析  
栗田奈美(東京女子大学准教授)  
ISBN 978-4-86110-564-7 ¥5500

英語と開発—グローバル化時代の言語政策と  
教育 F・サージエント、E・J・アーリング  
編／松原好次監訳 ISBN 978-4-86110-471-8 ¥3500

英語学—現代英語をより深く知るため  
菊池清明(元立教大学教授) 編  
ISBN 978-4-86110-513-5 ¥1400

啓蒙思想下のシンクレティック辞書—知の集成を目  
指して 早川勇(愛知大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-380-3 ¥5000

はじめての論文—語用論的な視点で調査・研  
究する 田中典子(清泉女子大学教授)  
ISBN 4-86110-349-0 三刷 ¥1800

ブラクマニクス・ワークシッピング—身のまわ  
りの言葉を語用論的に見る 田中典子(清泉  
女子大学教授) ISBN 4-86110-073-9 五刷 ¥1800

環境心理学—環境デザインへのバースヘクティ  
ブ 植究(実践女子大学教授)  
ISBN 4-86110-010-0 二版二刷 電子版のみ ¥2286



ca-presence

# の時代へ

xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

## 吉原直樹

### 6 / 社会的振り分けの向こうに みえてくるもの

笑劇のあとの悲劇とは、いったい、誰の言葉であったらう。人びとはいま、ロシアのウクライナ侵攻によってもたらされた笑劇から悲劇への幕間にあるものを、固唾を呑んで見守っている。それは過去の戦争がそうであったように、筆舌に尽くしがたい人道の危機をもたらしている。けれど、それ以上にモダニティの終わりを告げているようにみえる。

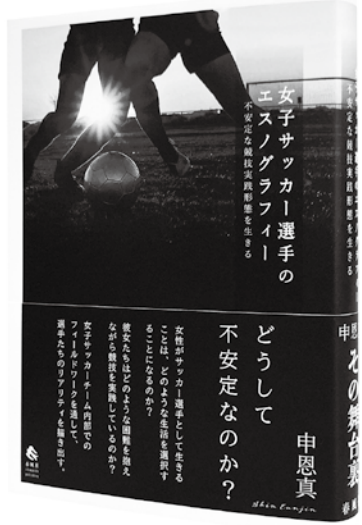
思い起こされるのは、いまから30年ほど前のこと。世界はポストモダニティへの扉を前にして震撼している、とある碩学が述べた(デヴィッド・ハーヴェイ『ポストモダニティの条件』)。ロシアのウクライナ

侵攻は、ある意味、そのポストモダニティへの扉を無理矢理こじ開けたようにみえる。それでは、その前にひろがっているのは、いったい、何なのだろう。しばしば指摘されるのは、たぶんにもダニズム的な国際主義の色調をおびているグローバルガバナンスの退場である。だからといって、その空隙を埋めるかのように「民主主義と専制主義」というディコトミーをあてはめるのは、あまりにも安易すぎる。それに還元できない新しい局面が立ちあらわれているのである。

考えてみれば、民主主義とされる側でも専制主義とされる側でも、社会全体がデジタル網にすっかり覆われ、上からの「社会的振り分け」(ソーシャルソーティング)がおそろしくすすんでいる。だから、人びとを社会的に配置する視線と選択肢が簡単にできあがり、いとも簡単にかから／かの女らを動員し宣撫することが可能になるのだ。そうした点でまた、民主主義の側においても専制主義の側においても「超」管理社会(=監視社会)化がすすみ、部分的にサイバーカオスといわれる状況が作り出されている。けれど、ここで忘れてはならないのは、そうした状況の深まりとともに、人道の根底をなす、異なる他者にたいする想像力にもとづいて人びとの間で資源をシェアする枠組み(コモン)が極度に衰微していることである。

ともあれ、ロシアのウクライナ侵攻は、サイバーカオスをうながすとともに、コ・プレゼンスの基層を掘り崩しかねないポストモダニティの一局面を示しているように思われてならない。(社会学者)

# 社会・歴史・政治

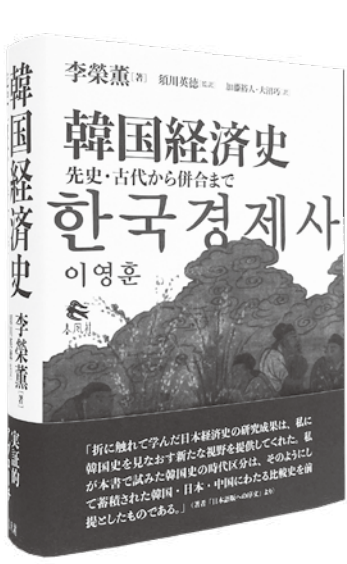
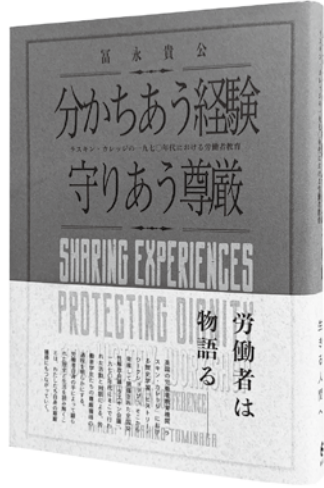


## 女子サッカー選手の不安定な競技実践形態を生きる

申恩眞 (北星学園大学専任講師)  
女子サッカー選手の労働と生活の内実について、チーム内部でのフィールドワークをもとに、その多様な「競技実践形態」から描きます。  
A5判上製・二四八頁 定価(4000円+税)  
ISBN 978-4-86110-795-5

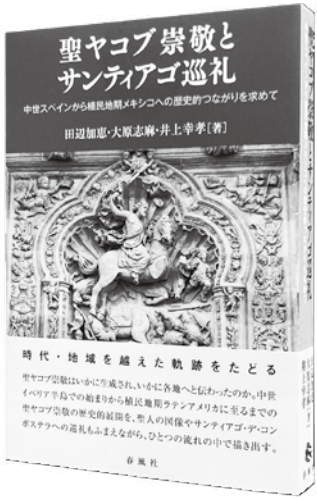
## 分かちあう経験・守りあう尊厳

富永貴公 (都留文科大学准教授)  
英国の労働者教育機関ラスキン・カレッジにおける歴史学習と対話を通して、労働者自身の手による尊厳獲得の過程を読み解く。  
A5判上製・二〇〇頁 定価(4500円+税)  
ISBN 978-4-86110-794-8



## 韓国経済史

李榮薫 著 / 須川英徳 (放送大学教授)・加藤裕人 (神戸外国語大学他非常勤講師)・大沼巧 (東京大学大学院博士課程) 訳  
東アジア史の大きな潮流を捉え、朝鮮半島における原初共同体から小農社会成立以降までを実証的に論じた、歴史認識を覆す経済通史。  
A5判上製・六六四頁 定価(7000円+税)  
ISBN 978-4-86110-782-5



## 聖ヤコブ崇敬とサンティアゴ巡礼

中世スペインから植民地期メキシコへの歴史的つながりを求めて  
田辺加恵 (立命館大学教授)・大原志麻 (静岡大学教授)・井上幸孝 (専修大学教授)  
聖ヤコブ崇敬はいかに生成され、いかに各地へと伝わったのか。イベリア半島からラテンアメリカへ、時代や地域を超えた流れを示す。  
四六判並製・三〇〇頁 定価(4000円+税)  
ISBN 978-4-86110-785-6

# ポストモダンの処方箋

29 禍々しき過去崇拜 白井聡

いまこの原稿を書いているのは、5月8日。明日9日は、ロシアの戦勝記念日である。そこでプーチン大統領が何を語るのか、世界が固唾を呑んで注目している。5月9日がロシアにとって一年のうち別格に重要な日であることは、皮肉なことに、ウクライナ侵攻という蛮行によって、世界に知られることとなった。

思い起こすのは、大学生時代、モスクワ大学へ交換留学生として一年弱の間滞在したときのこと(1999~00年)だ。出発前、留学経験者の先輩から当地の安全情報について話を伺った。当時、モスクワでの生活で最も警戒すべき危険として、ネオナチの存在が挙げられていた。私は遭遇しなかったが、運が良かったのだろう。そして、大事なアドバイスは、5月9日は絶対に外出するな、というものだった。なぜなら、その日はネオナチが最も活発になる日だからだ、と。「ナチに対する勝利を祝う日にネオナチが跋扈…」私は当惑するほかなかった。

一説によれば、5月9日が特別な祝日となったのは、大戦後すぐのことではなく、ソ連のブレジネフ政権期であったという。それはブレジネフ時代の閉塞感・停滞感と結びついている。共産主義社会は基本的に実現したというフィクションが流通したとき、未来は無となり、異様なまでの過去崇拜が始まったのだ、と。

そして、この「未来の消失」は、そのまま今日のロシアにつながる。「プーチンの戦争」に動機を与えたと目される新ユーラシア主義の思想は、帝政ロシアからソ連時代を経て現代まで「帝国たる

べきロシア」の自画像を与えるものなのだろう。しかし、ソ連崩壊以降のロシアは、帝国たろうにも、経済力、技術力は低下の一途をたどり、人口減少は止まらず、そして何よりも、かつてソ連を構成した国々の多くがロシアに対して背を向けた。要するに、魅力がないからだ。

現に多くのロシア国民が政府の「ウクライナのネオナチからの解放」という大義を信じていると伝えられる。この状況は政府のプロパガンダの徹底性のみには帰せられないであろう。それを信じた欲望が社会的に共有されているとき、プロパガンダは効力を持つ。帝国としてのロシアの歴史上最大の達成であるナチズムへの勝利に対する同一化の欲望が、ロシアのプロパガンダの背景には存在するであろうし、その欲望の背景は未来の不在による過去崇拜ではないのか。

強調したいのは、こうしたロシアの状況はまったく他人事ではないことだ。3.11以降の日本が何をやってきたか？東京五輪に大阪万博、そしてさらには札幌五輪まで誘致したいというのではないか。「東北復興のために東京で五輪を」という論理破綻を支えたのは、戦後の成長期に対するノスタルジア、というよりむしろ禍々しい過去崇拜ではないか。人口動態をはじめとして成長期の条件とまったく異なる社会状況のもとで、「あの夢をもう一度」と夢見る精神状態は、異様というほかない。プロパガンダ漬けのロシア人を日本人が嗤うことは到底できない。

(政治学者)

## 都市を観る―社会地図で可視化した都市社会の構造

浅川達人 (早稲田大学教授)  
目に見えない、手で触ることもできない社会を、文字や数値、社会地図を用いながら、どうやって可視化し、分析・考察するか。  
ISBN 978-4-86110-791-7 ¥2700

## 21世紀型スキルとしての情報社会学―VUC Aワールドを生きる人たちのために

天野徹 (明星大学教授)  
テクノロジの発達と普及が社会に及ぼした影響を考察し、Society 5.0の時代をサバイブするための資質や能力を提示する。  
ISBN 978-4-86110-781-8 ¥2800

## 『リスト全集』の出版

諸田賢 (神奈川大学名誉教授) 主著に匹敵する懸賞論文がパリで発見、独・米の研究者の協力……ナチスの足音が近づくなかで刊行された一九世紀ドイツの経済学者フリードリッヒ・リストの『全集』の編集と出版の経緯に迫る。  
ISBN 978-4-86110-787-0 ¥3500

## ファッションとテクノロジー―英国ウィクトリア朝ミドルクラスの衣生活の変容

長谷部寿女士 (日本女子大学他非常勤講師) 一九世紀英国における工業化・テクノロジーの影響を、ミドルクラスの女性のファッションに見出し、着飾る行為への思考と実践の変容を論じる。  
ISBN 978-4-86110-762-7 ¥4500

## アートとコミュニティ―横浜・黄金町の実践から

山野真悟 (美術作家)・鈴木伸治 (横浜市立大学教授)  
横浜の創造都市政策や横浜・黄金町での実践の記録を回顧し、文化政策と都市政策の視点からアートとコミュニティの関係を探る。  
ISBN 978-4-86110-752-8 ¥3000

## 老年笑い学―ユーモアで羽ばたくシニア

小向敦子 (高千穂大学教授)  
綺麗事だけではないシニア期だからこそ、笑ってらっしゃい！笑ってあげよう！老・病・死をもユーモアで飾れ！  
「笑い学」のメリットを見逃すな！  
ISBN 978-4-86110-778-8 ¥2400

## 講義 政治学入門―テモクラシーと国家を考へる

宮原辰夫 (文教大学教授)  
ISBN 978-4-86110-744-3 ¥2200

## アジアの海を渡る人々―二・七世紀の渡海者

上田信 (立教大学教授)・中島榮章 (九州大学准教授) 編  
ISBN 978-4-86110-729-0 ¥5000

## 制服ガールの総力戦―イギリスの「女の子」の戦時貢献

杉村使乃 (共立女子大学教授)  
ISBN 978-4-86110-603-3 ¥3200

## 社会的システム理論の軌跡―ソシオサイバネティクスとニクラス・ルーマン

赤堀三郎 (東京女子大学教授) ISBN 978-4-86110-720-7 ¥3600

## 現場に立つから、おもしろい―世界をつなぐひと・モノ・しくみ

江戸川大学現代社会学科 監修 ISBN 978-4-86110-740-5 ¥1800

## ナショナリズムの空間―イスラエルにおける死者の記念と表象

今野泰三 (中央大学准教授) ISBN 978-4-86110-722-1 ¥3600

## カラントル駅―ブラジル最大の刑務所における囚人たちの生態

ドラウジオ・ヴァレラ 著 / 伊藤秋仁 訳 ISBN 978-4-86110-695-8 ¥3600

## 現代中東における宗教・メディア・ネットワーキング―イスラームのゆくえ

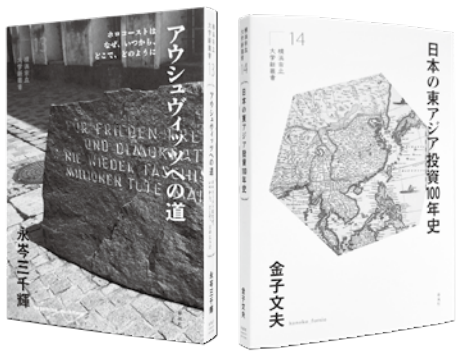
千葉悠志・安田慎 編 ISBN 978-4-86110-728-3 ¥2800

## 先祖祭祀と墓制の近代―創られた国民的習俗

問芝志保 (東北大学准教授) ISBN 978-4-86110-692-7 ¥5000

## 中央ヨーロッパ―歴史と文学

桂元嗣 (武蔵大学教授) ISBN 978-4-86110-701-6 ¥2800



立教大学人文叢書

- 1 人文資料学の現在 浦野聡他 編著 ISBN 4-86110-063-1 ￥2200
2 文学の基礎(レクシス) 後藤和彦編著 ISBN 4-86110-087-9 ￥2200
3 肖像と個性 藤巻明他 編著 ISBN 978-4-86110-138-0 ￥2200
4 人文資料学の現在II 菅谷憲典 編 ISBN 978-4-86110-163-2 ￥2200
5 書簡を読む 桑瀬章一郎 編 ISBN 978-4-86110-194-6 ￥2200

- 多文化チームと日本人リーダーの動的思考プロセス グラウンデッド・セオリーからのアプローチ 石黒武人 ISBN 978-4-86110-687-3 ￥3600
合法性と正当性 デイヴィッド・タイゼンハウス著／池端忠司(神奈川大学教授) 訳 ISBN 978-4-86110-686-6 ￥4100
東アジアの弾圧・抑圧を考えるー19世紀から現代まで 日本・中国・台湾 岩下哲典(東洋大学教授) 他 ISBN 978-4-86110-669-9 ￥4000
開発と文化における民衆参加ータンザニアの内的発展の条件 阪本公美子(宇都宮大学教授) ISBN 978-4-86110-676-7 ￥4500

- 寛容な社会ーアメリカ合衆国における言論の自由と過激派の言論 リー・C・ボリンジャー著／池端忠司 訳 ISBN 978-4-86110-593-7 ￥3900
食が描くインドー近現代の社会変容とアイデンティティ 井坂理穂(東京大学教授)・山根聡(大阪大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-633-0 二刷 ￥3700
難民支援ードイツメディアが伝えたこと 松原好次(元電気通信大学教授)・内藤裕子(翻訳者) ISBN 978-4-86110-607-1 ￥2700
社会学批判と現代ー早瀬利雄の人と学問 内藤辰美(山形大学教授) ISBN 978-4-86110-561-6 ￥3900

- 都市の遺産とまちづくりーアジア大都市の歴史保全 鈴木伸治(横浜市立大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-560-9 ￥3200
新版学問の暴力ーアイヌ墓地はなぜあはれなか 植木哲也(北洋大学客員教授) ISBN 978-4-86110-531-9 ￥2400
医療制度改革の比較政治 石垣千秋(山梨県立大学准教授) ISBN 978-4-86110-534-0 ￥5400
国際コミュニケーションの政治学 本多周爾(武蔵野学院大学教授) ISBN 978-4-86110-524-4 ￥3000

- 婚姻連帯論と社会学ーレヴィーストローヌ、デュルケムをめぐって 門口充徳(成蹊大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-423-7 ￥4900
難の誕生ー難節供に込められた対の豊穡 皆川美恵子(十文字学園女子大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-439-8 ￥3800
スイスの歴史ガイド グレゴワール・ナッペイ著／藤野成爾 訳 ISBN 978-4-86110-413-8 三刷 ￥1800
不思議フランス 魅惑の謎 藤野敦子(京都産業大学教授) ISBN 978-4-86110-401-5 一刷 ￥1800

日本の東アジア投資100年史 金子文夫(横浜市立大学名誉教授) 一九一〇年代から二〇一〇年代にかけて日本が東アジアに対して行ってきた投資活動について考察。一〇〇年間の日本ー東アジア経済関係の変遷を描き出す。 ISBN 978-4-86110-804-4 ￥3000

古代文字史料の中心性と周縁性 立教大学東アジア地域環境問題研究所／深津行徳・浦野聡 編著 ISBN 4-86110-067-4 ￥3500

On the Road to the East Asian Community 奥田孝晴(文芸大学教授) 他 編 ISBN 978-4-86110-655-2 ￥6000

東アジアの秩序を考えるー歴史・経済・言語 岩下哲典(東洋大学教授) 他 ISBN 978-4-86110-574-6 ￥3700

先生、NPOって儲かりますか？ー若者たちが地元で賢く生きる方法 渡辺豊博(NPO法人クマノエーエーエー) ISBN 978-4-86110-480-0 ￥1389

エスノメトリロジーの可能性 椎野信雄(文芸大学教授) ISBN 978-4-86110-109-0 電子版のみ ￥4666

アウシュヴィッツへの道ーホロコーストはなぜいつから、どこで、どのように 永岑三千輝(横浜市立大学名誉教授) 第三帝国のユダヤ人迫害から大量殺戮に至る過程を、最近の総合的史料集に依拠して再検証を行う。ホロコースト研究における重要書。 ISBN 978-4-86110-805-1 ￥2500

教育公務員特例法制定過程の研究ー占領下における教員身分保障制度改革構想 高橋寛人(石巻専修大学教授) ISBN 978-4-86110-650-7 ￥3000

統計は力なりーエルンスト・エンゲルの希望の学 太田和宏(北海学園大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-656-9 ￥3700

当事者が支援するー薬物依存からの回復 ラルクの日々パート2 南保輔・中村英代・相良翔 編 ISBN 978-4-86110-584-5 ￥2000

病いと薬のロコモロジーーヒマラヤ東部タワンにおけるチベット医学・漢薬・妖術の民族誌長岡慶(日本学術振興会特別研究員) ISBN 978-4-86110-710-8 ￥4000

持続可能な開発における「文化」の居場所ー「誰一人取り残さない」開発への応答 関根久雄 編 ISBN 978-4-86110-723-8 ￥4100

Y専の歴史ー横浜市立大学の源流 齊藤毅慈(横浜市立大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-716-0 ￥2500

読んで愉しむイギリス文学史入門 白井義昭(横浜市立大学名誉教授、立正大学教授) ISBN 978-4-86110-372-8 五刷 ￥1500

基礎的自治体と町内会自治会ー「行政協力制度」の歴史・現状・行方 日高昭夫(山梨学院大学特任教授) ISBN 978-4-86110-611-8 電子版のみ ￥4200

戦後小樽の軌跡ー地方都市の衰退と再生 内藤辰美・佐久間美穂(川村学園女子大学准教授) ISBN 978-4-86110-526-5 ￥3800

愛と共生のイスラームー現代エチオピアのスーフィズムと聖者崇拜 石原美奈子(南山大学教授) 編著 ISBN 978-4-86110-730-6 ￥6300

現代世界の呪術ー文化人類学的探究 川田牧人・白川千尋・飯田卓編 ISBN 978-4-86110-691-0 電子版のみ ￥4500

読んで愉しむイギリス文学史入門 白井義昭(横浜市立大学名誉教授、立正大学教授) ISBN 978-4-86110-372-8 五刷 ￥1500

ムガル建築の魅力ー皇帝たちが築いた地上の楽園 宮原辰夫(文芸大学教授) ISBN 978-4-86110-660-6 ￥3100

北の商都「小樽」の近代ーある都市の伝記 内藤辰美(山形大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-450-3 ￥3900

愛と共生のイスラームー現代エチオピアのスーフィズムと聖者崇拜 石原美奈子(南山大学教授) 編著 ISBN 978-4-86110-730-6 ￥6300

同定の政治 転覆する声ーアルゼンチンの「失踪者」と日系人 石田智恵(早稲田大学准教授) ISBN 978-4-86110-678-1 ￥3600

依存からひろがる人生機会ーインド・スラム地域の人間開発と「子育ての民主化」 茶谷智之 ISBN 978-4-86110-677-4 ￥3700

基礎的自治体と町内会自治会ー「行政協力制度」の歴史・現状・行方 日高昭夫(山梨学院大学特任教授) ISBN 978-4-86110-611-8 電子版のみ ￥4200

ムガル建築の魅力ー皇帝たちが築いた地上の楽園 宮原辰夫(文芸大学教授) ISBN 978-4-86110-660-6 ￥3100

北の商都「小樽」の近代ーある都市の伝記 内藤辰美(山形大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-450-3 ￥3900

愛と共生のイスラームー現代エチオピアのスーフィズムと聖者崇拜 石原美奈子(南山大学教授) 編著 ISBN 978-4-86110-730-6 ￥6300

同定の政治 転覆する声ーアルゼンチンの「失踪者」と日系人 石田智恵(早稲田大学准教授) ISBN 978-4-86110-678-1 ￥3600

依存からひろがる人生機会ーインド・スラム地域の人間開発と「子育ての民主化」 茶谷智之 ISBN 978-4-86110-677-4 ￥3700

基礎的自治体と町内会自治会ー「行政協力制度」の歴史・現状・行方 日高昭夫(山梨学院大学特任教授) ISBN 978-4-86110-611-8 電子版のみ ￥4200

ムガル建築の魅力ー皇帝たちが築いた地上の楽園 宮原辰夫(文芸大学教授) ISBN 978-4-86110-660-6 ￥3100

北の商都「小樽」の近代ーある都市の伝記 内藤辰美(山形大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-450-3 ￥3900

愛と共生のイスラームー現代エチオピアのスーフィズムと聖者崇拜 石原美奈子(南山大学教授) 編著 ISBN 978-4-86110-730-6 ￥6300

同定の政治 転覆する声ーアルゼンチンの「失踪者」と日系人 石田智恵(早稲田大学准教授) ISBN 978-4-86110-678-1 ￥3600

依存からひろがる人生機会ーインド・スラム地域の人間開発と「子育ての民主化」 茶谷智之 ISBN 978-4-86110-677-4 ￥3700

基礎的自治体と町内会自治会ー「行政協力制度」の歴史・現状・行方 日高昭夫(山梨学院大学特任教授) ISBN 978-4-86110-611-8 電子版のみ ￥4200

ムガル建築の魅力ー皇帝たちが築いた地上の楽園 宮原辰夫(文芸大学教授) ISBN 978-4-86110-660-6 ￥3100

北の商都「小樽」の近代ーある都市の伝記 内藤辰美(山形大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-450-3 ￥3900

愛と共生のイスラームー現代エチオピアのスーフィズムと聖者崇拜 石原美奈子(南山大学教授) 編著 ISBN 978-4-86110-730-6 ￥6300

同定の政治 転覆する声ーアルゼンチンの「失踪者」と日系人 石田智恵(早稲田大学准教授) ISBN 978-4-86110-678-1 ￥3600

依存からひろがる人生機会ーインド・スラム地域の人間開発と「子育ての民主化」 茶谷智之 ISBN 978-4-86110-677-4 ￥3700

基礎的自治体と町内会自治会ー「行政協力制度」の歴史・現状・行方 日高昭夫(山梨学院大学特任教授) ISBN 978-4-86110-611-8 電子版のみ ￥4200

ムガル建築の魅力ー皇帝たちが築いた地上の楽園 宮原辰夫(文芸大学教授) ISBN 978-4-86110-660-6 ￥3100

北の商都「小樽」の近代ーある都市の伝記 内藤辰美(山形大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-450-3 ￥3900

愛と共生のイスラームー現代エチオピアのスーフィズムと聖者崇拜 石原美奈子(南山大学教授) 編著 ISBN 978-4-86110-730-6 ￥6300

同定の政治 転覆する声ーアルゼンチンの「失踪者」と日系人 石田智恵(早稲田大学准教授) ISBN 978-4-86110-678-1 ￥3600

依存からひろがる人生機会ーインド・スラム地域の人間開発と「子育ての民主化」 茶谷智之 ISBN 978-4-86110-677-4 ￥3700

基礎的自治体と町内会自治会ー「行政協力制度」の歴史・現状・行方 日高昭夫(山梨学院大学特任教授) ISBN 978-4-86110-611-8 電子版のみ ￥4200

ムガル建築の魅力ー皇帝たちが築いた地上の楽園 宮原辰夫(文芸大学教授) ISBN 978-4-86110-660-6 ￥3100

北の商都「小樽」の近代ーある都市の伝記 内藤辰美(山形大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-450-3 ￥3900

愛と共生のイスラームー現代エチオピアのスーフィズムと聖者崇拜 石原美奈子(南山大学教授) 編著 ISBN 978-4-86110-730-6 ￥6300

同定の政治 転覆する声ーアルゼンチンの「失踪者」と日系人 石田智恵(早稲田大学准教授) ISBN 978-4-86110-678-1 ￥3600

依存からひろがる人生機会ーインド・スラム地域の人間開発と「子育ての民主化」 茶谷智之 ISBN 978-4-86110-677-4 ￥3700

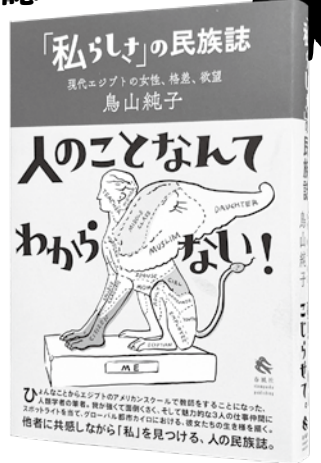


「私らしさ」の民族誌

現代エジプトの女性、格差、欲望  
鳥山純子 (立命館大学准教授)

エジプトで学校教師をするようになった人類学者の筆者が、面倒くさくとも魅力的な同僚三人「こじらせ女子」たちの生き様を描く。「他者」に共感しながら「私」を見つける、人の民族誌。

四六判上製・四三頁 定価(3200円+税)  
ISBN 978-4-86110-786-3



身体を彫る、世界を印す

山本芳美 (都留文科大学教授)・桑原牧子 (金城学院大学教授)・津村文彦 (名城大学教授) 編

皮膚の上でどのような美が展開し、いかなる想いがせめぎ合っているのだろうか。各地の事例を取りあげ、それぞれの社会の文化、美学、歴史、政治を考察する、日本初のイレズミ・タトゥーの学術論集。  
A5判並製・三三四頁 定価(4000円+税)  
ISBN 978-4-86110-803-7



日系インドネシア人の

エスノグラフィ

紡がれる日系人意識

伊藤雅俊 (日本大学助教)

太平洋戦争後もインドネシアに残留した日本兵たちと彼らの子孫の生活において、「日系インドネシア人である」とはいかなることであるのかを考察する。  
A5判上製・三三六頁 定価(4200円+税)  
ISBN 978-4-86110-769-6



嗜好品から見える社会

大坪玲子 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所フェロー)・谷憲一 (上智大学アジア文化研究所共同研究員) 編

人類学者たちが現地地嗜好品を見て、体験し、語り合った、その集大成としての論集。生産・流通・消費における国家や政治との関係も考察しながら、その社会を見る。  
A5判並製・四三頁 定価(4500円+税)  
ISBN 978-4-86110-802-0



ノー・ルール!

英国における民俗フットボールの歴史と文化

吉田文久 (日本福祉大学教授)

サッカーやラグビーの起源と称される、民俗フットボール。イングランド・スコットランド各地の調査をもとに書かれる、ルールなきスポーツの歴史・文化と楽しみ。  
A5判上製・三五頁 定価(4300円+税)  
ISBN 978-4-86110-783-2



The Agricultural Mongols  
ボルジギン・ブレンサイン (滋賀県立大学教授)  
ISBN 978-4-86110-543-2 ¥6000

「共感」へのアプローチ—文化人類学の第一歩  
渥美一弥 (自治医科大学名誉教授)  
ISBN 978-4-86110-497-8 二刷 ¥2000

霊媒のいる街—北タイ、チェンマイの宗教復興  
福浦一男 (桐蔭横浜大学准教授)  
ISBN 978-4-86110-489-3 ¥4000

〈紛争〉の比較民族誌—グローバル化におけるオセアニアの暴力・民族対立・政治的混沌  
丹羽典生 編著 ISBN 978-4-86110-482-4 ¥3700

つながりの民族誌—中国摩梭人の母系社会における「共生」への模索 金繩初美 (西南学院大学教授) ISBN 978-4-86110-487-9 ¥5000

現代アジアの宗教—社会主義を経た地域を読む  
藤本透子 (国立民族学博物館准教授) 編  
ISBN 978-4-86110-453-4 ¥4200

途上目的地—スハイン・サンティアゴ徒歩巡礼路 旅の民族誌 土井清美 (中央学院大学准教授) ISBN 978-4-86110-466-4 電子版のみ ¥4000

シノー・パフォーマンスが立ち上がる—現代アフリカの若者たちがむすぶ社会関係 大門碧 (北海道大学特任助教) ISBN 978-4-86110-499-7 ¥4500

Social Development, Culture, and Participation  
阪本公美子 (宇都宮大学教授)  
ISBN 978-4-86110-174-8 電子版のみ ¥6476

インカ帝国の成立—先スペイン期アンデスの社会動態と構造 渡部森哉 (南山大学教授)  
ISBN 978-4-86110-205-9 ¥7619

癒しと呪いの人類学 (第二版)  
板垣明美 (横浜国立大学准教授)  
ISBN 978-4-921146-86-3 ¥2800

シリース  
来たるべき人類学 (全五巻)

1 セックスの人類学  
奥野克巳・椎野若菜・竹ノ下祐一 編  
ISBN 978-4-86110-180-9 二刷 ¥1905

2 経済からの脱出  
織田竜也・深田淳太郎 編  
ISBN 978-4-86110-200-4 ¥2381

3 宗教の人類学  
吉田匡典・石井美保・花洲馨也 編  
ISBN 978-4-86110-247-9 ¥1905

4 アジアの人類学  
片岡樹・シンジルト・山田仁史 編  
ISBN 978-4-86110-357-5 二刷 ¥2381

5 人と動物の人類学  
奥野克巳・山口未花子・近藤社秋 編  
ISBN 978-4-86110-325-4 ¥2381

刊行予定 (タイトルは仮)

▼随想 京都学派の歴史哲学 小野寺功▼新版 大地の哲学 小野寺功▼仏教儀道の研究 岩松浅夫▼カントの人権思想 菅沢龍文▼新井興選集 コールダニエル編▼誕生と始まりの思想 出雲春明▼デカルトによる修練の哲学 津崎良典▼フイヒテ伝 湯浅正彦他訳▼「仮面」としてのディオニソス 齋藤直樹▼現代のヒンドゥー・ナショナルリスト・イデオロギーの分析 近藤光博▼Contemporary /ish Plays 佐竹晶子▼「土佐日記」の言説研究 佐藤美弥子▼左伝の女たち 尾崎保子▼荒野へII 中井農▼アグリマスに魅せられて 大月和彦、深田晋一▼T. S. Eliot 山口敦子▼ジョー・オートン 矢島直子▼バーナード・ショー 森川寿他▼終わりの風景 辻和彦他▼アロエ 宗洋訳▼ミルトン研究案内 ミルトン協会編▼果樹園の守り手 山口和彦訳▼ロマン主義的感性論の現在 高橋優▼90s 失踪するアメリカ大場健司▼作家・吉屋信子論 山田昭子▼〈怒り〉の文学化 栗山雄佑▼狐物語とその周辺 高名健文▼メタファーから読む樋口一葉 笹川洋子▼賢治を動かした妹 宮沢トシの人生と信仰 山根知子▼精説「紅樓夢」 池間里代子▼長唄の世界へようこそII 細谷朋子▼伝承で読み解く文化—藤倉恵子▼フエに暮らして 金尾有理子▼ミットフォードとギネス—族の御曹司 大西俊男訳▼ユダヤ人として生きる 仁木久恵訳▼祇園祭の物語 小谷野裕子▼外交としての芸能 我部大和▼「エリザベト」の旅 関根裕子▼十七〜十八世紀のポロランド演劇史 谷山和夫訳▼近代市民社会の信仰と音楽 瀧尾文字▼日本におけるベル・カントの父 アドルフ・サルコリ 直江学美▼「新ドイツ派」概念の成立 上山典子▼レオナルド・ダ・ヴィンチ研究 田辺清▼益裁 川崎仁美▼江戸時代の唐画 伊藤紫織▼暮らしの日本語(スペイン語版) 長谷川哲子▼暗記嫌いのためのロジカル英語入門 佐藤美弥子▼留学のための異文化トレーニング 勝又恵理子▼認知言語学・用法的基礎モデルから考える 橋本ゆかり▼自律のための教育学 大川洋▼薙刀と学校教育 井上アヤ子▼健康自然塾 川村協平▼インタージェン・スピリチュアルケア 小西達也▼教育の理念・歴史・思想 藤井基貴、中村美智太郎編著▼大学の理念 豊崎光衛訳▼ジョン・デューイ教育思想の再解釈 生澤繁樹▼哲学教育論 生澤繁樹▼教育人間学の再検討 宮嶋秀光▼アーベルの討議倫理学に関する教育学的研究 丸橋静香▼一般科学教授学綱要 牛田伸一訳▼社会教育における生活記録の系譜 新井浩子▼すべての子どもたちを市民に渡部竜也他訳▼インクルーシブ教育実現のための方策の提案 柴垣登▼ドイツの幼児教育におけるビルドゥング 中西さやか▼フンボルトの陶冶理論と教育改革 宮本勇▼戦前期日本における精神衛生相談の諸相 末田邦子▼精神科看護師の自己形成に関する研究 千々岩友子▼現代中東政治学 末近浩太▼現代日本農業論考 小川真如▼エッセイ風都市社会学 吉瀬雄一▼住宅をめぐる〈欲望〉の都市論 吉江俊▼「読書の自由」の成立 小南理恵▼イラン人とは誰のことか 八尾師誠他訳▼韓国の地方民家 佐々木史郎▼コーポ

レート・ステークホルダー 豊田聡▼ストリップ 73年史 西条昇▼戦間期チエコのモード記者 ミレナ・イエセンスカ▼の仕事 半田幸子▼カミールに語る、ケベックのフェミニズム 矢内琴江訳▼渡海者のアイデンティティ 上田信▼フランス 魅惑と不安 北垣徹▼パプアニューギニアの華人 市川哲▼アフリカ研究と文化人類学 関谷雄一▼身体時間的人类学 板垣明美▼妖怪文化の現代的活用に関する研究 市川寛也▼一九世紀末に活躍した日本人彫師たち 山本芳美▼越境兵士上杉妙子▼石敢當の比較研究 蔭明超▼人魚表象をめぐって 中丸禎子▼長床と神社研究 白井正子▼利害関係者が形作る寺院管理 田中鉄也▼フオビアがいっぱい 高山陽子編▼「よどろ」の形成史 月野楓子▼取るに足らないものたちの民族誌 内藤順子▼恵みありて、インジェラに集う上村知春▼ヴァーナルミキはどこへ行けばよいか 増木優衣▼ジャワ隣組 小林和夫▼タキ・オンコイ 谷口智子他

(東洋英和女学院大学社会科学部研究叢書)  
▼トラウマ被害のセルフ・ケア 岡本浩一 (横浜国立大学新叢書)  
▼主観的韓国論

出版をお考えの方へ

清新なお原稿をお待ちしています。お気軽にお問い合わせください。

春風接人

かつてフランス文学者の桑原武夫は、中里介山の『大菩薩峠』を評し、日本文化の最古層に届いていると言った(何に書いてあったか、見つかりません)。古層の下の最古層といえは、弥生時代よりも前の縄文、さらに旧石器時代だろう。縄文時代、晩期は稲作も始まっていたともいわれるが、ななく狩猟採集が行われた。古い時代の狩りは、こちらのいのちも、いつ取られてもおかしくない。神経を張り詰め、一瞬一瞬の、風のざわめきや雨の音、月の翳り、鳥の飛翔を、なにかの兆候と見立て判断し、行動することが求められる。『大菩薩峠』音無しし構えの机竜之介は縄文人だ。竜之介にもあると思われる共振の感覚に沈潜しながら、宮沢賢治は『大菩薩峠』を愛読し、歌曲『大菩薩峠の歌』をつくった。縄文の末裔は、縄文人のこころとエコーする。西田幾多郎の教えを受け、のちに全一学を唱えた稀代の哲学者森信三が、幻の師として終生敬仰した人物に新井興選がいる。奥選の言葉は、最古層に達し、いや、突き抜けていると思う。(三)

春風新聞 第二九号 二〇二三年六月七日発行  
発行者:三浦潮 発行所:春風社  
印刷:シンノ書籍印刷 レイアウト:矢萩多聞